新潟大学
医歯学総合病院2020

［２０２０年度　概要］

NIIGATA UNIVERSITY
Medical & Dental
Hospital

新潟大学医歯学総合病院

病院長

冨田　善彦

病院長ごあいさつ

本院は前身の新潟病院の開設から140年余りと国内でも随一の伝統を持っており、医育機関としては約120年前の官立新潟医学専門学校設立から医師をはじめとした医療人養成の中心となってきました。これは、本院で学び、技術を習得した医師、看護師をはじめ、多くの医療人が第一線で活躍し、また、後輩を育成する側に回ることが連綿と続いてきたことを意味します。このことは、「厚み」を持った高品質の医療の実現に大きく役立っております。現在、新潟県の3次医療圏を支える特定機能病院として種々の高度医療を行っておりますが、高難度新規医療技術等管理センターを設置し、その安全性には一層の対策を講じております。また、前臨床研究（基礎研究）に引き続く臨床研究や治験の実施をシームレスに支援する臨床研究推進センターが稼働しており、さらなる診断、治療技術の改善に注力いたしております。もう一つの特徴は、医科と歯科の総合病院であることで、綿密な連携体制で両科の面から患者さんのトータルケアを実施しております。

また、患者さん本位の安全で安心できる医療を提供することも私どもの目標です。病気になれば、患者さんご本人だけでなく、ご家族も大変ご心配、ご不安になることと思いますが、そのような中でも、すこしでもスムーズに診療を受けていただけるように数々の改善を行ってまいりました。病院へのアクセスを良くするために病院周りの道路を拡幅し、駐車場を整備いたしました。また、公共バスが直接外来の玄関まで乗り入れております。外来玄関を入っていただきますと新しく設置された患者総合サポートセンターがあり、受診や入院手続きを総合的にお手伝いさせていただいております。また、アメニティーモールにはコンビニエンスストア、レストラン、コーヒーショップ等が入っており、皆様の利便性を図っております。

国立大学法人には第3期中期目標・中期計画期間（平成28～令和3年度）があり、その終了時点での目指すべき姿や取組をまとめた「新大病院グランドデザイン2016-2021」を策定しています。このグランドデザインに掲げた「患者さんにやさしい高度医療」実現のため職員一同努力させていただいております。

今後とも、なお一層のご支援を賜りますようお願い申し上げます。

2020年度 概要
Outline

公益財団法人日本医療機能評価機構による病院機能評価を受審し、
令和2年5月8日付けで認定証（更新認定）が交付されました。

CONTENTS

1 沿 革 History 6

2 機構図 Organization Chart 8

3 歴代病院長 Chronological List of Directors 10

4 職 員 Staff
- 1) 役職員 Administrators 11
- 2) 職員数 Number of Staff Members 12

5 病床数 Number of Beds 13

6 患者数・診療実績等 Number of Patients/Clinical Activities
- 1) 患者数 Number of Patients 14
- 2) 手術件数 Number of Operations 16
- 3) 救急外来患者数・救命救急センター入院患者数 Number of Patients of Medical Emergency Center 17
- 4) ドクターヘリ出動要請、出動件数 Activities of Air Ambulance 17
- 5) 総合周産期母子医療センター入院患者数 Number of In-patients of General Center for Perinatal, Maternal and Neonatal Medicine 17
- 6) 分娩件数 Number of Deliveries 17
- 7) リハビリテーション件数 Number of Rehabilitation Cases 17
- 8) 臨床検査件数 Number of Clinical Examinations 18

7 病院開設承認等 Designation of Medical Institutions
- 1) 病院開設承認等 Designation of Medical Institutions 20
- 2) 看護体系 Nursing System 20
- 3) 先進医療 Advanced Medical Service 20
- 4) その他 Other 20

8 医療機関の指定状況 Legal Authorization of Medical Services 21

9 診療科 Clinical Department 22

10 中央診療施設等 Central Clinical Facilities 43

11 院内案内図 Floor Guide 54

12 建物配置図 Building Layout 56

9 診療科
Clinical Department

【医科】

循環器内科 22
内分泌・代謝内科 22
血液内科 23
腎・膠原病内科 23
呼吸器・感染症内科 24
心療内科 24
消化器内科・肝胆膵内科 25
脳神経内科 25
腫瘍内科 26
精神科 26
小児科 27
消化器外科 27
乳腺・内分泌外科 28
心臓血管外科 28
呼吸器外科 29
整形外科 29
形成・美容外科 30
小児外科 30
脳神経外科 31
皮膚科 31
泌尿器科 32
眼科 32
耳鼻咽喉・頭頸部外科 33
産科婦人科 33
放射線治療科 34
放射線診断科 34
麻酔科 35
救急科 35
リハビリテーション科 36
病理診断科 36

【歯科】

口腔再建外科 37
顎顔面口腔外科 37
歯科放射線科 38
歯科麻酔科 38
小児歯科・障がい者歯科 39
矯正歯科 39
予防歯科 40
歯周病科 40
歯の診療科 41
冠・ブリッジ診療科 41
義歯診療科 42
口腔リハビリテーション科 42

10 中央診療施設等
Central Clinical Facilities

検査部 43
手術部 43
放射線部 43
高次救命災害治療センター 43
高密度無菌治療部 44
物流センター 44
総合リハビリテーションセンター 44
総合周産期母子医療センター 44
病理部(医科担当) 45
病理部(歯科担当) 45
集中治療部 45
血液浄化療法部 45
医療情報部 46
光学医療診療部 46
医科総合診療部 46
歯科総合診療部 46
輸血・再生・細胞治療センター 47
患者総合サポートセンター 47
医療安全管理部 47
感染管理部 47
総合臨床研修センター 48
摂食嚥下機能回復部 48
顎口腔インプラント治療部 48
医療連携口腔管理治療部 48
言語治療室 49
お口の健康室 49
栄養管理部 49
腫瘍センター 49
医師キャリア支援センター 50
移植医療支援センター 50
不整脈センター 50
魚沼地域医療教育センター 50
臨床研究推進センター 51
ゲノム医療センター 51
遺伝医療支援センター 51
高度医療開発センター 51
医療人材育成センター 52
小児がん医療センター 52
新規医療技術等管理センター 52
薬剤部 52
看護部 53
診療支援部 53

本院の理念・目標

理　念

生命と個人の尊厳を重んじ、質の高い医療を提供するとともに、
人間性豊かな医療人を育成します

目　標

・患者本位の安全で安心できる医療を提供します
・豊かな人間性と高い倫理性を備えた質の高い医療人を育成します
・研究成果を反映した高度で先進的な医療を実践します
・地域連携を推進するとともに地域の医療水準の向上に貢献します
・病院運営の適正化と効率化を促進します

医療者の職業倫理指針

1. 自らの責任を自覚し、品位を保ち、人格を高めるよう努めます
2. 継続学習の精神を保ち、つねに医学の知識と技術の習得に努めます
3. 守秘義務を遵守し、個人情報保護に努めます
4. 患者の人格を尊重し、信頼を得るよう努めます
5. お互いの専門性を尊重し、協力してチーム医療を実践します
6. 患者に公平に医療を提供します
7. 医療の公共性を重んじ、法規範を遵守します
8. 医療の進歩と発展に尽します

患者の権利

1. 個人の尊厳が尊重され、良質で公平な医療を受けることができます
2. 病状、治療、看護等について十分な説明と情報提供を受けることができます
3. 他の医療機関の医師の意見（セカンドオピニオン）を聞くことができます
4. 自分が受ける医療について自分の意思で決めることができます
5. プライバシーが尊重され、医療の過程で得られた個人情報は保護されます

患者の責務

1. 医療関係者と協同し、積極的に診療に参加していただく必要があります
2. 診療に必要な情報は、できるだけ正確に医療関係者にお伝え下さい
3. 他の患者さんや本院職員の権利を尊重し、迷惑行為や円滑な診療を妨げる行為※などは慎んで下さい
   ※　暴言暴力、大声、喫煙、飲酒、医療費の未納等
4. 迷惑行為や円滑な診療が妨げられる行為が繰り返される場合には、診療をお断りしたり、院外退去を求めたりする場合があります

お願い

本院は特定機能病院および大学附属病院であり、質の高い医療人を育成し、研究成果を反映した高度で先進的な医療を実現する使命があります。臨床実習や臨床研修、臨床研究や臨床試験に、ご理解ご協力をお願いします。

小児患者の権利

・こどもは、安心できる環境のもとで、公平でより良い医療を受けることができます。
・こども及びその家族は、病気のこと、治療の方法、看護について、十分な説明と情報提供を受けることができます。
・こども及びその家族は、病気のこと、治療の方法について、自分の考えや気持ちを病院の医師及び看護師等に伝えることができます。
・こども及びその家族は、受ける医療について、自分の意思で決めることができます。
・こども及びその家族は、プライバシーが尊重され、医療の過程で得られた個人情報は保護されます。

1 沿革

明治 2年 5月	1869	施薬院開設(同年9月廃止)
3年 4月	1870	共立病院開設(明治6年2月廃止)
6年 7月	1873	私立新潟病院仮開設(同年11月新築移転)
9年 4月	1876	県立新潟病院医学所と改称
12年 7月	1879	県立新潟医学校附属病院と改称
16年 8月	1883	県立甲種新潟医学校附属病院と改称 (明治21年3月廃止)
21年 4月	1888	区立新潟病院設置
22年 4月	1889	市立新潟病院と改称(市制施行)
43年 6月	1910	官立新潟医学専門学校附属医院と改称
大正 11年 4月	1922	官立新潟医科大学附属医院と改称
昭和 24年 5月	1949	新潟大学医学部附属病院と改称(新潟大学に包括) 診療科(11科): 第一内科、第二内科、外科、 整形外科、産婦人科、 皮膚泌尿器科、眼科、耳鼻咽喉科、 小児科、精神科、放射線科
28年 8月	1953	外科は第一外科と第二外科(脳神経外科)に 分離独立(合計12診療科)
31年 5月	1956	歯科設置(合計13診療科)
34年 4月	1959	皮膚泌尿器科は皮膚科と泌尿器科に分離独立 (合計14診療科)
36年 4月	1961	事務は部制となり2課(管理課、業務課)設置
37年 4月	1962	検査部及び手術部設置 薬局は薬剤部と改称
38年 4月	1963	麻酔科及び脳神経外科(第二外科から移行) 設置(合計16診療科)
40年 4月	1965	神経内科設置(合計17診療科)
41年 4月	1966	第三内科設置(合計18診療科)
42年 5月	1967	内視鏡室(院内措置)設置
6月	1967	医学部附属病院: 放射線部設置及び産婦人科は産科婦人科と改称 歯学部附属病院設置に伴い 歯科廃止(合計17診療科) 歯学部附属病院設置 診療科(3科):第一保存科、口腔外科、 第一補綴科 歯学部附属病院:薬剤部及び看護部設置 臨床検査室(院内措置)、 手術室(院内措置)、 滅菌材料室(院内措置)、 歯科技工室(院内措置)設置
43年 4月	1968	歯学部附属病院:予防歯科及び矯正科設置 (合計5診療科)

44年 4月	1969	医学部附属病院:輸血部設置 歯学部附属病院:第二保存科及び第二補綴 科設置(合計7診療科)
46年 4月	1971	歯学部附属病院:言語治療室(院内措置)設置
48年 4月	1973	歯学部附属病院:口腔外科は第一口腔外科と 第二口腔外科に分離独立 (合計8診療科)
49年 4月	1974	医学部附属病院:材料部設置
50年 10月	1975	医学部附属病院:理学療法部設置
51年 4月	1976	医学部附属病院:事務部は3課制となり、総務課、 管理課及び医事課設置
5月	1976	医学部附属病院:看護部設置
52年 10月	1977	医学部附属病院:分娩部設置
53年 5月	1978	歯学部附属病院:生理機能室(院内措置)設置
54年 4月	1979	医学部附属病院: 旭町地区中央機械室(院内措置)設置
10月	1979	歯学部附属病院:小児歯科設置(合計9診療科)
55年 4月	1980	医学部附属病院:救急部設置 歯学部附属病院:歯科放射線科設置(合計10診療科)
56年 4月	1981	医学部附属病院:小児外科設置(合計18診療科)
57年 1月	1982	医学部附属病院:病歴管理室(院内措置)設置
4月	1982	医学部附属病院:高密度無菌治療部設置
60年 4月	1985	歯学部附属病院:歯学部及び附属病院の事 務部を改組統合し、総務課及び業務課設置
62年 5月	1987	医学部附属病院:病理部設置
6月	1987	医学部附属病院:情報処理室(院内措置)設置
平成 元年 5月	1989	歯学部附属病院:歯科麻酔科設置(合計11診療科)
3年 4月	1991	医学部附属病院:集中治療部設置
4年 4月	1992	歯学部附属病院:特殊歯科総合治療部設置
6年 12月	1994	医学部附属病院:特定機能病院の承認
8年 5月	1996	医学部附属病院:形成外科設置(合計19診療科)
9年 4月	1997	医学部附属病院:血液浄化療法部及び 医療情報部(院内措置)設置、 病歴管理室(院内措置)及び 情報処理室(院内措置)を廃止
10年 4月	1998	医学部附属病院:医療情報部設置、 医療情報部(院内措置)を廃止
8月	1998	歯学部附属病院:病理検査室(院内措置)設置
11月	1998	医学部附属病院:感染症管理室(院内措置)設置
11年 2月	1999	医学部附属病院:治験センター(院内措置)設置
12年 4月	2000	医学部附属病院:周産母子センター設置、 分娩部を廃止
13年 4月	2001	医学部附属病院:光学医療診療部設置、 内視鏡室(院内措置)を廃止

		歯学部附属病院:総合診療部設置 診療科再編(4診療科): 口腔外科、口腔保健科、 歯の診療科、噛み合わせ診療科 11診療科廃止: 予防歯科、第一保存科、 第二保存科、第一口腔外科、 第二口腔外科、第一補綴科、 第二補綴科、矯正科、小児歯科、 歯科放射線科、歯科麻酔科 放射線室(院内措置)、 歯科衛生士室(院内措置)、 栄養管理室(院内措置)及び 医療情報部室(院内措置)設置
5月	2001	医学部附属病院:総合診療部(院内措置)設置
8月	2001	医学部附属病院:臨床試験部(院内措置)設置、 治験センター(院内措置)を廃止
14年 1月	2002	医学部附属病院:医療安全管理部(院内措置)設置
4月	2002	医学部附属病院:総合診療部設置、 総合診療部(院内措置)を廃止 臨床試験部設置、 臨床試験部(院内措置)を廃止
15年 4月	2003	医学部附属病院:生命科学医療センター設置、 輸血部及び臨床試験部を廃止 地域保健医療推進部設置 感染症管理室(院内措置)は、 感染管理部(院内措置)と改称 臨床研修センター(院内措置)設置 歯学部附属病院:摂食・嚥下機能回復部(院内措置)及び顎関節治療部(院内措置)設置
15年 10月	2003	新潟大学医歯学総合病院設置 (医学部附属病院と歯学部附属病院を統合) 診療科(23): 第一内科、第二内科、第三内科、精神科、小児科、 第一外科、第二外科、整形外科、形成外科、 小児外科、皮膚科、泌尿器科、眼科、耳鼻咽喉科、 放射線科、産科婦人科、麻酔科、脳神経外科、 神経内科、口腔外科、口腔保健科、歯の診療科、 噛み合わせ診療科 中央診療施設(18): 検査部、手術部、放射線部、救急部、 高密度無菌治療部、材料部、理学療法部、 周産母子センター、病理部、集中治療部、 血液浄化療法部、医療情報部、光学医療診療部、 医科総合診療部、生命科学医療センター、 地域保健医療推進部、歯科総合診療部、 特殊歯科総合治療部 院内措置施設(5): 医療安全管理部、感染管理部、臨床研修センター、 摂食・嚥下機能回復部、顎関節治療部 薬剤部、看護部、診療支援部、事務部
17年 9月	2005	物流センター設置、材料部を廃止
18年 4月	2006	中央診療施設設置(8): 総合リハビリテーションセンター、医療安全管理部、 感染管理部、総合臨床研修センター、 摂食・嚥下機能回復部、顎関節治療部、 インプラント治療部、栄養管理部 中央診療施設廃止(2): 理学療法部、特殊歯科総合治療部 院内措置施設廃止(5): 医療安全管理部、感染管理部、臨床研修センター、 摂食・嚥下機能回復部、顎関節治療部
19年 4月	2007	腫瘍センター設置
20年 11月	2008	医師キャリア支援センター設置
21年 10月	2009	高次救命災害治療センター設置、救急部廃止
22年 4月	2010	総合周産期母子医療センター設置、 周産母子センター廃止
23年 4月	2011	移植医療支援センター及び不整脈センター設置
24年 11月	2012	腫瘍内科設置 第一内科は循環器内科と内分泌・代謝内科と血液内科に分離独立 第二内科は腎・膠原病内科と呼吸器・感染症内科と心療内科に分離独立 第三内科は消化器内科と肝胆膵内科に分離独立 第一外科は消化器外科と乳腺・内分泌外科に分離独立 第二外科は心臓血管外科と呼吸器外科に分離独立 放射線科は放射線治療科と放射線診断科に分離独立 形成外科を形成・美容外科と改称 耳鼻咽喉科を耳鼻咽喉・頭頸部外科と改称 診療科再編(4診療科) 口腔外科系歯科、矯正・小児系歯科、予防・保存系歯科、摂食機能・補綴系歯科 4診療科廃止 口腔外科、口腔保健科、歯の診療科、噛み合わせ診療科 (合計32診療科)
25年 6月	2013	救急科設置 (合計33診療科)
27年 6月	2015	魚沼地域医療教育センター設置
28年 4月	2016	リハビリテーション科設置(合計34診療科)
12月		病理診断科設置(合計35診療科)
29年 4月	2017	臨床研究推進センター設置 新規医療技術等管理センター設置
12月		患者総合サポートセンター設置 地域保健医療推進部を廃止
30年 1月	2018	ゲノム医療センター設置 遺伝医療支援センター設置
3月		戦略企画室設置
31年 2月	2019	高度医療開発センター設置 医療人材育成センター設置
4月		小児がん医療センター設置 生命科学医療センターを廃止 輸血・再生・細胞治療センターを設置 神経内科を脳神経内科と改称
令和 2年 4月	2020	顎関節治療部とインプラント治療部を統合し、 顎口腔インプラント治療部設置 医療連携口腔管理治療部設置

2 機構図

病院長

- 副病院長（総括）
- 副病院長（歯科総括）
- 副病院長（企画戦略（研究））
- 副病院長（企画戦略（医科歯科連携））
- 副病院長（診療・病院機能）
- 副病院長（医療安全管理）
- 副病院長（感染管理・教育）
- 副病院長（看護（地域連携））
- 副病院（総務・財

- 病院長補佐（病院機能強化（医科））
- 病院長補佐（病院機能強化（歯科））

- 戦略企画室 ― 室長 ― 副室長

診療科

循環器内科	科長	総括医長・外来医長・病棟医長
内分泌・代謝内科	科長	総括医長・外来医長・病棟医長
血液内科	科長	総括医長・外来医長・病棟医長
腎・膠原病内科	科長	総括医長・外来医長・病棟医長
呼吸器・感染症内科	科長	総括医長・外来医長・病棟医長
心療内科	科長	総括医長・外来医長・病棟医長
消化器内科	科長	総括医長・外来医長・病棟医長
肝胆膵内科	科長	総括医長・外来医長・病棟医長
脳神経内科	科長	総括医長・外来医長・病棟医長
腫瘍内科	科長	総括医長・外来医長
精神科	科長	総括医長・外来医長・病棟医長
小児科	科長	総括医長・外来医長・病棟医長
消化器外科	科長	総括医長・外来医長・病棟医長
乳腺・内分泌外科	科長	総括医長・外来医長・病棟医長
心臓血管外科	科長	総括医長・外来医長・病棟医長
呼吸器外科	科長	総括医長・外来医長・病棟医長
整形外科	科長	総括医長・外来医長・病棟医長
形成・美容外科	科長	総括医長・外来医長・病棟医長
小児外科	科長	総括医長・外来医長・病棟医長
脳神経外科	科長	総括医長・外来医長・病棟医長
皮膚科	科長	総括医長・外来医長・病棟医長
泌尿器科	科長	総括医長・外来医長・病棟医長
眼科	科長	総括医長・外来医長・病棟医長
耳鼻咽喉・頭頸部外科	科長	総括医長・外来医長・病棟医長
産科婦人科	科長	総括医長・外来医長・病棟医長
放射線治療科	科長	総括医長・外来医長・病棟医長
放射線診断科	科長	総括医長・外来医長・病棟医長
麻酔科	科長	総括医長・外来医長・病棟医長
救急科	科長	総括医長・病棟医長
リハビリテーション科	科長	
病理診断科	科長	
口腔外科系歯科	科長	総括医長・病棟医長
	口腔再建外科	室長 ― 副室長
	顎顔面口腔外科	室長 ― 副室長
	歯科放射線科	室長 ― 副室長
	歯科麻酔科	室長 ― 副室長
矯正・小児系歯科	科長	総括医長
	小児歯科・障がい者歯科	室長 ― 副室長
	矯正歯科	室長 ― 副室長
予防・保存系歯科	科長	総括医長
	予防歯科	室長 ― 副室長
	歯周病科	室長 ― 副室長
	歯の診療科	室長 ― 副室長
摂食機能・補綴系歯科	科長	総括医長
	冠・ブリッジ診療科	室長 ― 副室長
	義歯診療科	室長 ― 副室長
	口腔リハビリテーション科	室長 ― 副室長
言語治療室	室長	副室長
お口の健康室	室長	副室長

令和2年5月1日現在

中央診療施設

- 検査部 — 部長 — 副部長
- 手術部 — 部長 — 副部長
- 放射線部 — 部長 — 副部長
- 高次救命災害治療センター — 部長 — 副部長、副部長
- 高密度無菌治療部 — 部長 — 副部長
- 物流センター — 部長 — 副部長
- 総合リハビリテーションセンター — 部長 — 副部長
- 総合周産期母子医療センター — 部長 — 副部長
- 病理部 — 部長 — 副部長
- 集中治療部 — 部長 — 副部長
- 血液浄化療法部 — 部長 — 副部長
- 医療情報部 — 部長 — 副部長
- 光学医療診療部 — 部長 — 副部長
- 医科総合診療部 — 部長 — 副部長
- 歯科総合診療部 — 部長 — 副部長
- 輸血・再生・細胞治療センター — 部長 — 副部長
- 患者総合サポートセンター — 部長 — 副部長
- 医療安全管理部 — 部長 — 副部長、副部長、副部長
- 感染管理部 — 部長 — 副部長
- 総合臨床研修センター — 部長 — 副部長、副部長
- 摂食嚥下機能回復部 — 部長 — 副部長
- 顎口腔インプラント治療部 — 部長 — 副部長
- 医療連携口腔管理治療部 — 室長 — 副部長
- 栄養管理部 — 部長 — 副部長、栄養管理室長
- 腫瘍センター — 部長 — 副部長
- 医師キャリア支援センター — 部長 — 副部長
- 移植医療支援センター — 部長 — 副部長
- 不整脈センター — 部長 — 副部長
- 魚沼地域医療教育センター — 部長
- 臨床研究推進センター — 部長 — 副部長
  - 臨床研究開発戦略部門長
  - 臨床研究品質管理部門長
  - 臨床研究実施部門長
  - 運営管理部門長
- ゲノム医療センター — 部長 — 副部長（がんゲノム医療部門）、副部長（ゲノム情報管理部門）
- 遺伝医療支援センター — 部長 — 副部長
- 高度医療開発センター — 部長
- 医療人材育成センター — 部長
- 新規医療技術等管理センター — センター長
  - 副センター長（高難度新規医療技術管理部門）
  - 副センター長（未承認新規医薬品等管理部門）
- 小児がん医療センター — 部長 — 副部長

薬剤部

- 薬剤部長
  - 副薬剤部長
  - 副薬剤部長
  - 副薬剤部長
  - 副薬剤部長

看護部

- 看護部長
  - 副看護部長（総務担当）
  - 副看護部長（教育担当）
  - 副看護部長（業務担当）
  - 副看護部長（質管理担当）
  - 副看護部長（安全管理担当）

診療支援部

- 診療支援部長
  - 副診療支援部長
  - 副診療支援部長
  - 臨床検査部門長
  - 放射線部門長
  - リハビリ部門長
  - 臨床工学部門長
  - 歯科技工部門長
  - 歯科衛生部門長

事務部

- 事務部長
  - 総務課長
    - 副課長（総務）
    - 副課長（人事）
  - 経営企画課長
    - 副課長（財務企画）
    - 副課長（経営分析）
  - 管理運営課長
    - 副課長
  - 基礎・臨床研究支援課長
  - 医事課長
    - 副課長（医事総括）
    - 副課長（診療）
    - 専門員（医療福祉）
    - 専門員（安全管理）
    - 専門員（育成）

3 歴代病院長 Chronological List of Directors

医歯学総合病院長
Director, Medical & Dental Hospital

下條　文武	GEJYO Fumitake	平成15年10月1日～平成19年3月31日 October 1, 2003 - March 31, 2007
畠山　勝義	HATAKEYAMA Katsuyoshi	平成19年4月1日～平成22年3月31日 April 1, 2007 - March 31, 2010
内山　聖	UCHIYAMA Makoto	平成22年4月1日～平成25年3月31日 April 1, 2010 - March 31, 2013
鈴木　榮一	SUZUKI Eiichi	平成25年4月1日～平成31年3月31日 April 1, 2013 - March 31, 2019
冨田　善彦	TOMITA Yoshihiko	平成31年4月1日～現在 April 1, 2019 -Present

医学部附属病院長
Director, Medical Hospital

富田　忠太郎	TOMITA Chutaro	明治43年6月～明治44年4月 June 1910 - April 1911
池田　廉一郎	IKEDA Renichiro	明治44年5月～大正3年9月 May 1911 - September 1914
沢田　敬義	SAWADA Keigi	大正3年9月～大正14年3月 September 1914 - March 1925
岩川　克輝	IWAKAWA Katsuteru	大正14年3月～昭和2年3月 March 1925 - March 1927
富永　忠司	TOMINAGA Chuji	昭和2年3月～昭和6年2月 March 1927 - February 1931
本島　一郎	MOTOJIMA Ichiro	昭和6年2月～昭和11年7月 February 1931 - July 1936
中村　隆治	NAKAMURA Ryuji	昭和11年7月～昭和15年10月 July 1936 - October 1940
熊谷　直樹	KUMAGAI Naoki	昭和15年10月～昭和17年10月 October 1940 - October 1942
橋本　喬	HASHIMOTO Takashi	昭和17年10月～昭和19年9月 October 1942 - September 1944
鳥居　恵二	TORII Keiji	昭和19年9月9日～昭和21年9月11日 September 9, 1944 - September 11, 1946
柴田　経一郎	SHIBATA Tsuneichiro	昭和21年9月11日～昭和22年12月10日 September 11, 1946 - December 10, 1947
和久井　豊一	WAKUI Toyokazu	昭和22年12月10日～昭和24年7月31日 December 10, 1947 - July 31, 1949
天児　民和	AMAKO Tamikazu	昭和24年7月31日～昭和25年10月14日 July 31, 1949 - October 14, 1950
中山　栄之助	NAKAYAMA Einosuke	昭和25年10月15日～昭和27年7月31日 October 15, 1950 - July 31, 1952
野崎　秀英	NOZAKI Shuei	昭和27年8月1日～昭和30年8月31日 August 1, 1952 - August 31, 1955
河野　左宙	KONO Sachu	昭和30年9月1日～昭和32年8月31日 September 1, 1955 - August 31, 1957
中山　栄之助	NAKAYAMA Einosuke	昭和32年9月1日～昭和34年8月31日 September 1, 1957 - August 31, 1959
上村　忠雄	KAMIMURA Tadao	昭和34年9月1日～昭和38年8月31日 September 1, 1959 - August 31, 1963
堺　哲郎	SAKAI Tetsuro	昭和38年9月1日～昭和40年8月31日 September 1, 1963 - August 31, 1965
田中　宏	TANAKA Hiroshi	昭和40年9月1日～昭和41年2月17日 September 1, 1965 - February 17, 1966
堺　哲郎（事務取扱）	SAKAI Tetsuro	昭和41年2月17日～昭和41年3月31日 February 17, 1966 - March 31, 1966
三国　政吉	MIKUNI Masakichi	昭和41年4月1日～昭和42年9月30日 April 1, 1966 - September 30, 1967
三国　政吉（事務取扱）	MIKUNI Masakichi	昭和42年10月1日～昭和42年10月31日 October 1, 1967 - October 31, 1967
小林　収	KOBAYAShI Osamu	昭和42年11月1日～昭和44年2月28日 November 1, 1967 - February 28, 1969
河野　左宙（事務取扱）	KONO Sachu	昭和44年3月1日～昭和44年8月14日 March 1, 1969 - August 14, 1969
浅野　献一（事務取扱）	ASANO Kenichi	昭和44年8月15日～昭和45年11月15日 August 15, 1969 - November 15, 1970
松岡　松三（事務取扱）	MATSUOKA Matsuzo	昭和45年11月16日～昭和46年4月15日 November 16, 1970 - April 15, 1971
松岡　松三	MATSUOKA Matsuzo	昭和46年4月16日～昭和48年4月15日 April 16, 1971 - April 15, 1973
猪　初男	INO Hatsuo	昭和48年4月16日～昭和51年6月15日 April 16, 1973 - June 15, 1976
沢　政一	SAWA Masaichi	昭和51年6月16日～昭和55年6月15日 June 16, 1976 - June 15, 1980
田島　達也	TAJIMA Tatsuya	昭和55年6月16日～昭和59年6月15日 June 16, 1980 - June 15, 1984
市田　文弘	ICHIDA Fumihiro	昭和59年6月16日～昭和61年6月15日 June 16, 1984 - June 15, 1986
武藤　輝一	MUTO Terukazu	昭和61年6月16日～昭和63年6月15日 June 16, 1986 - June 15, 1988
佐藤　良夫	SATO Yoshio	昭和63年6月16日～平成2年6月15日 June 16, 1988 - June 15, 1990
柴田　昭	SHIBATA Akira	平成2年6月 16日～平成4年1月31日 June 16, 1990 - January 31, 1992
柴田　昭（事務取扱）	SHIBATA Akira	平成4年2月1日～平成4年2月29日 February 1, 1992 - February 29, 1992
中野　雄一	NAKANO Yuichi	平成4年3月1日～平成6年2月28日 March 1, 1992 - February 28, 1994
江口　昭治	EGUCHI Shoji	平成6年3月1日～平成8年2月29日 March 1, 1994 - February 29, 1996
岩渕　眞	IWAFUCHI Makoto	平成8年3月1日～平成10年1月31日 March 1, 1996 - January 31, 1998
岩渕　眞（事務取扱）	IWAFUCHI Makoto	平成10年2月1日～平成10年2月28日 February 1, 1998 - February 28, 1998
酒井　邦夫	SAKAI Kunio	平成10年3月1日～平成12年2月29日 March 1, 1998 - February 29, 2000
朝倉　均	ASAKURA Hitoshi	平成12年3月1日～平成14年2月28日 March 1, 2000 - February 28, 2002
下條　文武	GEJYO Fumitake	平成14年3月1日～平成15年9月30日 March 1, 2002 - September 30, 2003

歯学部附属病院長
Director, Dental Hospital

山内　峻呉	YAMAUCHI Shungo	昭和42年6月1日～昭和42年7月31日 June 1, 1967 - July 31, 1967
常葉　信雄	TOKOHA Nobuo	昭和42年8月1日～昭和44年7月31日 August 1, 1967 - July 31, 1969
細田　裕康	HOSODA Hiroyasu	昭和44年8月1日～昭和46年7月31日 August 1, 1969 - July 31, 1971
福原　達郎	FUKUHARA Tatsuro	昭和46年8月1日～昭和48年7月31日 August 1, 1971 - July 31, 1973
小林　幸男	KOBAYASHI Yukio	昭和48年8月1日～昭和50年4月1日 August 1, 1973 - April 1, 1975
堀井　欣一	HORII Kinichi	昭和50年4月2日～昭和54年4月1日 April 2, 1975 - April 1, 1979
細田　裕康	HOSODA Hiroyasu	昭和54年4月2日～昭和56年4月1日 April 2, 1979 - April 1, 1981
花田　晃治	HANADA Koji	昭和56年4月2日～昭和60年4月1日 April 2, 1981 - April 1, 1985
大橋　靖	OHASHI Yasushi	昭和60年4月2日～平成元年4月1日 April 2, 1985 - April 1, 1989
原　耕二	HARA Koji	平成元年4月2日～平成7年4月1日 April 2, 1989 - April 1, 1995
野田　忠	NODA Tadashi	平成7年4月2日～平成11年4月1日 April 2, 1995 - April 1, 1999
河野　正司	KONO Shoji	平成11年4月2日～平成15年4月1日 April 1, 1999 - April 1, 2003
宮﨑　秀夫	MIYAZAKI Hideo	平成15年4月2日～平成15年9月30日 April 2, 2003 - September 30, 2003

4 職員 Staff

1 役職員 *Administrators*

令和2年11月1日現在

病院長 Director, University Medical and Dental Hospital

	教授	冨田 善彦 Prof. TOMITA Yoshihiko

副病院長 Vice-Directors of Hospital

総括 Exective Vice Director	教授	土田 正則 Prof. TSUCHIDA Masanori
歯科総括 Exective Vice Director for Dentistry	教授	小林 正治 Prof. KOBAYSHI Tadaharu
企画戦略(研究) Planning and Strategy for Research	教授	小野寺 理 Prof. ONODERA Osamu
企画戦略(医科歯科連携) Planning and Strategy for Medical and Dental Cooperation	教授	齋藤 功 Prof. SAITO Isao
診療・病院機能 Medical Treatment and Hospital Quality	教授	若井 俊文 Prof. WAKAI Toshifumi
医療安全管理 Patient Safety	教授	鳥谷部 真一 Prof. TOYABE Shinichi
感染管理・教育 Infection Management and Education	教授	菊地 利明 Prof. KIKUCHI Toshiaki
看護(地域連携) Nursing and Community Cooperation		杉田 洋子 SUGITA Yoko
総務・財務 General Affairs and Finance		岡田 俊 OKADA Suguru

病院長補佐 Deputy Director

病院機能強化(医科) Quality Improvement of Medicine	教授	堀井 新 Prof. HORII Arata
病院機能強化(歯科) Quality Improvement of Dentistry	教授	瀬尾 憲司 Prof. SEO Kenji

診療科 Medical Examination and Treatment Department

循環器内科 Cardiovascular Medicine	科長	准教授	尾崎 和幸 Assoc. Prof. OZAKI Kazuyuki
内分泌・代謝内科 Endocrinology and Metabolism	科長	教授	曽根 博仁 Prof. SONE Hirohito
血液内科 Hematology	科長	教授	曽根 博仁 Prof. SONE Hirohito
腎・膠原病内科 Nephrology and Rheumatology	科長	教授	成田 一衛 Prof. NARITA Ichiei
呼吸器・感染症内科 Respiratory Medicine and Infectious Disease	科長	教授	菊地 利明 Prof. KIKUCHI Toshiaki
心療内科 Psychosomatic Medicine	科長	教授	菊地 利明 Prof. KIKUCHI Toshiaki
消化器内科 Gastroenterology	科長	教授	寺井 崇二 Prof. TERAI Shuji
肝胆膵内科 Hepato-biliary-pancreatology	科長	教授	寺井 崇二 Prof. TERAI Shuji
脳神経内科 Neurology	科長	教授	小野寺 理 Prof. ONODERA Osamu
腫瘍内科 Medical Oncology	科長	教授	西條 康夫 Prof. SAIJO Yasuo
精神科 Psychiatry	科長	教授	染矢 俊幸 Prof. SOMEYA Toshiyuki
小児科 Pediatrics	科長	教授	齋藤 昭彦 Prof. SAITO Akihiko
消化器外科 Digestive Surgery	科長	教授	若井 俊文 Prof. WAKAI Toshifumi
乳腺・内分泌外科 Breast and Endocrine Surgery	科長	教授	若井 俊文 Prof. WAKAI Toshifumi
心臓血管外科 Cardiovascular Surgery	科長	准教授	白石 修一 Assoc. Prof. SHIRAISHI Shuichi
呼吸器外科 Thoracic Surgery	科長	教授	土田 正則 Prof. TSUCHIDA Masanori
整形外科 Orthopedic Surgery	科長	教授	川島 寛之 Prof. KAWASHIMA Hiroyuki
形成・美容外科 Plastic, Reconstructive and Aesthetic Surgery	科長	教授	松田 健 Prof. MATSUDA Ken
小児外科 Pediatric Surgery	科長	教授	木下 義晶 Prof. KINOSHITA Yoshiaki
脳神経外科 Neurosurgery	科長	教授	藤井 幸彦 Prof. FUJII Yukihiko
皮膚科 Dermatology	科長	教授	阿部 理一郎 Prof. ABE Riichiro
泌尿器科 Urology	科長	教授	冨田 善彦 Prof. TOMITA Yoshihiko
眼科 Ophthalmology	科長	教授	福地 健郎 Prof. FUKUCHI Takeo
耳鼻咽喉・頭頸部外科 Otolaryngology, Head and Neck Surgery	科長	教授	堀井 新 Prof. HORII Arata
産科婦人科 Obstetrics and Gynecology	科長	教授	榎本 隆之 Prof. ENOMOTO Takayuki
放射線治療科 Radiation Oncology	科長	教授	石川 浩志 Prof. ISHIKAWA Hiroyuki
放射線診断科 Diagnostic Radiology	科長	教授	石川 浩志 Prof. ISHIKAWA Hiroyuki
麻酔科 Anesthesiology	科長	教授	馬場 洋 Prof. BABA Hiroshi
救急科 Acute Medicine	科長	准教授	本多 忠幸 Assoc. Prof. HONDA Tadayuki
リハビリテーション科 Rehabilitation Medicine	科長	教授	川島 寛之 Prof. KAWASHIMA Hiroyuki
病理診断科 Diagnostic Pathology	科長	教授	味岡 洋一 Prof. AJIOKA Yoichi
口腔外科系歯科 Oral Surgery, Radiology and Anesthesia	科長	教授	高木 律男 Prof. TAKAGI Ritsuo
矯正・小児系歯科 Orthodontics and Pedodontics	科長	教授	齋藤 功 Prof. SAITO Isao
予防・保存系歯科 Preventive and Conservative Dentistry	科長	教授	小川 祐司 Prof. OGAWA Hiroshi
摂食機能・補綴系歯科 Prosthodontics and Oral Function	科長	教授	井上 誠 Prof. INOUE Makoto

中央診療施設 Clinical and Laboratory Facilities

検査部 Medical Laboratory Division	部長	教授	成田 一衛 Prof. NARITA Ichiei
手術部 Operation Center	部長	教授	馬場 洋 Prof. BABA Hiroshi
放射線部 Department of Radiology	部長	教授	石川 浩志 Prof. ISHIKAWA Hiroyuki
高次救命災害治療センター Advanced Disaster Medical & Emergency Critical Care Center	部長	教授	若井 俊文 Prof. WAKAI Toshifumi
高密度無菌治療部 Division of Bone Marrow Transplantation	部長	教授	曽根 博仁 Prof. SONE Hirohito
物流センター Distribution Center	部長	教授	川島 寛之 Prof. KAWASHIMA Hiroyuki
総合リハビリテーションセンター General Rehabilitation Center	部長	教授	川島 寛之 Prof. KAWASHIMA Hiroyuki
総合周産期母子医療センター General Center for Perinatal, Maternal and Neonatal Medicine	部長	教授	榎本 隆之 Prof. ENOMOTO Takayuki
病理部 Pathological Division	部長	教授	味岡 洋一 Prof. AJIOKA Yoichi
集中治療部 Intensive Care Unit	部長	教授	若井 俊文 Prof. WAKAI Toshifumi
血液浄化療法部 Blood Purification Center	部長	教授	成田 一衛 Prof. NARITA Ichiei
医療情報部 Department of Medical Informatic	部長	教授	赤澤 宏平 Prof. AKAZAWA Kohei
光学医療診療部 Department of Endoscopy	部長	教授	寺井 崇二 Prof. TERAI Shuji
医科総合診療部 Department of General Medicine	部長	教授	堀井 新 Prof. HORII Arata
歯科総合診療部 General Dentistry and Clinical Education Unit	部長	教授	藤井 規孝 Prof. FUJII Noritaka
輸血・再生・細胞治療センター Center For Transfusion And Cell Therapy	部長	教授	小野寺 理 Prof. ONODERA Osamu
患者総合サポートセンター Patient Support Center	部長	教授	齋藤 昭彦 Prof. SAITO Akihiko
医療安全管理部 Department of Patient Safety	部長	教授	鳥谷部 真一 Prof. TOYABE Shinichi
感染管理部 Division of Infection Control and Prevention	部長	教授	菊地 利明 Prof. KIKUCHI Toshiaki
総合臨床研修センター General Clinical Training Center	部長	教授	堀井 新 Prof. HORII Arata
摂食嚥下機能回復部 Unit of Dysphagia Rehabilitation	部長	教授	井上 誠 Prof. INOUE Makoto
医療連携口腔管理治療部 Oral Management Clinic for Medical Cooperation	部長	教授	高木 律男 Prof. TAKAGI Ritsuo
顎口腔インプラント治療部 Oral Implant and Temporomandibular Joint Clinic	部長	教授	魚島 勝美 Prof. UOSHIMA Katsumi
栄養管理部 Department of Nurtritional Management	部長	教授	寺井 崇二 Prof. TERAI Shuji
腫瘍センター Center for Clinical Oncology	部長	教授	西條 康夫 Prof. SAIJO Yasuo
医師キャリア支援センター Career Support Center for Medical Doctors	部長	教授	堀井 新 Prof. HORII Arata
移植医療支援センター Transplantation Support Service Center	部長	准教授	齋藤 和英 Assoc. Prof. SAITO Kazuhide
不整脈センター Heart Rhythm Center	部長	教授	土田 正則 Prof. TSUCHIDA Masanori
魚沼地域医療教育センター Uonuma Institute of Community Medicine	部長	特任教授	高田 俊範 Prof. TAKADA Toshinori
臨床研究推進センター Clinical and Translational Research Center	部長	教授	小野寺 理 Prof. ONODERA Osamu
ゲノム医療センター Genome Medical Center	部長	教授	若井 俊文 Prof. WAKAI Toshifumi
遺伝医療支援センター Center for Medical Genetics Service and Genetic Counseling	部長	教授	池内 健 Prof. IKEUCHI Takeshi
高度医療開発センター Advanced Clinical Reasearch Center	部長	教授	土田 正則 Prof. TSUCHIDA Masanori
医療人材育成センター Center for Development of Clinical Human Resources	部長	教授	菊地 利明 Prof. KIKUCHI Toshiaki
新規医療技術等管理センター Management Center for New Medical Skills and Treatment	センター長	教授	冨田 善彦 Prof. TOMITA Yoshihiko
小児がん医療センター Childhood Cancer Medical Center	部長	教授	齋藤 昭彦 Prof. SAITO Akihiko

薬剤部 Division of Pharmacy

薬剤部長	教授	外山 聡 Prof. TOYAMA Akira

看護部 Department of Nursing

看護部長	杉田 洋子 SUGITA Yoko

診療支援部 Department of Clinical Technology

診療支援部長	金澤 勉 KANAZAWA Tsutomu

事務部 Administration Department

事務部長	岡田 俊 OKADA Suguru
総務課長	土田 秀樹 TSUCHIDA Hideki
経営企画課長	小林 晴男 KOBAYASAHI Haruo
管理運営課長	雲崎 雄次 KUMOZAKI Yuuji
基礎・臨床研究支援課長	八百板 正樹 YAOITA Masaki
医事課長	島田 彰 SHIMADA Akira

2 職員数

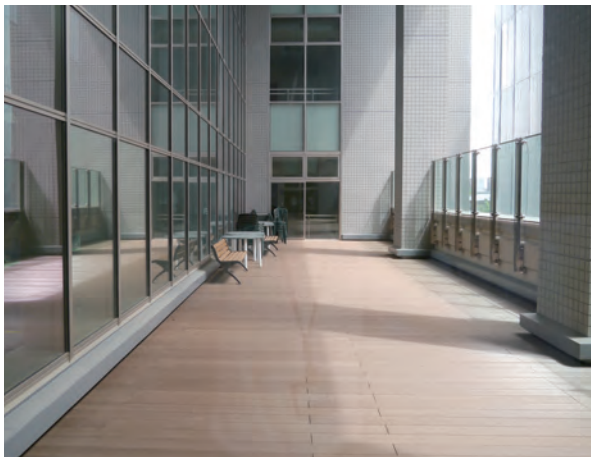
Number of Staff Members

（令和２年５月１日現在）

区分 Divisions		常勤職員 Regular Staffs	非常勤職員等 Part-time Service Staffs
病院長 Director		1	
教員 Professors	教授 Professor	48　(46)	
	准教授 Associate Professor	50　(34)	
	講師 Lecturer	53　(10)	
	助教 Assistant Professor	221　(64)	
計 Total		372　(154)	
特任教員等 Specially Appointed Professors. etc		※210	※41　＜41＞
医員・レジデント Medical Doctors / Dental Doctors / Residents			386　＜187＞
臨床研修医・臨床研修歯科医 Clinical Training Medics / Clinical Training Dentists			43
医療技術職員 Medical Technician		182	77　＜32＞
看護師等 Nurses.etc		872	30　＜30＞
研究支援者等 Research Supporters			6　＜6＞
事務系職員 Clerical Staffs		91	95　＜70＞
合計 Sum Total		**1,675　(154)**	**678　＜366＞**

（　）内は、危機管理本部、医歯学系及び脳研究所の診療科等担当の教員数で内数
〈　〉内は、パートタイム職員で内数
※には、医歯学系及び脳研究所の診療科等担当の特任教員を含む

外来診療棟4階「歯科外来」



外来診療棟2階「バルコニー」

5 病床数 Number of Beds

（令和２年５月１日現在）

診療科名等 Clinical Divisions			特別室 Special Room	普通室 Regular Room	計 Total
西病棟 West Ward	11階	内科（腎・呼吸器・一般）病棟 Internal Medicine (Nephrology / Respiratory / General) Ward	8	40	48
	10階	内科（血液・循環器・一般）病棟 Internal Medicine (Hematology / Cardiology / General) Ward	7	41	48
	9階	皮膚科・内科病棟 Dematology / Internal Medicine Ward	9	38	47
	8階	外科（消化器・一般）病棟 Surgery (Digestive / General) Ward	8	40	48
	7階	整形外科・形成外科病棟 Orthopedic / Plastic Surgery Ward	8	40	48
	6階	小児科・小児外科・形成外科・脳神経外科病棟・院内学級 Pediatrics / Pediatric Surgery / Plastic Surgery / Neurosurgery Ward / Class Hospital	7	36	43
	5階	産科病棟・総合周産期母子医療センター Obstetics・General Center for Perinatal, Maternal and Neonatal Medicine Ward	3	37	40
	4階	産科・婦人科・内科病棟 Obstetrics/Gynecology/Internal Medicine Ward	6	42	48
東病棟 East Ward	11階	脳神経内科・内科病棟 Neurology / Internal Medicine Ward	7	41	48
	10階	外科（心臓血管・呼吸器）・内科・救急病棟 Surgery (Cardiovascular / Thoracic) / Internal Medicine / Acute Medcine Ward	8	40	48
	9階	脳神経外科・内科病棟 Neurosurgery / Internal Medicine Ward	6	39	45
	8階	内科（消化器・腫瘍）・外科病棟 Internal Medicine (Digestive / Medical Oncology) / Surgery Ward	7	40	47
	7階	耳鼻咽喉科・整形外科・救急病棟 Otorhinolaryngology / Orthopedic / Acute Medicine Ward	8	39	47
	6階	眼科・小児科・麻酔・形成外科病棟 Ophthalmology / Pediatrics / Anesthesiology / Plastic Surgery Ward	10	35	45
	5階	精神科病棟 Psychiatry Ward		64	64
	4階	泌尿器科・放射線科病棟 Urology / Radiology Ward	5	36	41
	3階	歯科（口腔外科）・BCR・救急・内科（呼吸器・腫瘍）・整形外科病棟 Dentistry (Oral and Maxillofacial Surgery) / BCR / Acute Medicine / Internal Medicine (Respiratory / Medical Oncology) / Orthopedic Surgery Ward	3	41	44
中央診療棟 Central Examination Building		高次救命災害治療センター（集中治療部含む） Advanced Disaster Medical & Emergency Critical Care Center (Include The Intensive Care Unit)		28	28
		計 Total	**110**	**717**	**827**

高次救命災害治療センター

総合周産期母子医療センター

6 患者数・診療実績等

1 患者数 *Number of Patients*

医科 Medical

診療科 Clinical Divisions	入院 In-patients 延患者数 Total Number of Patients	入院 In-patients 一日平均患者数 Per day	外来 Out-patients 延患者数 Total Number of Patients	外来 Out-patients 一日平均患者数 Per day
循環器内科 Cardiovascular Medicine	13,828	37.8	130,204 ※1	542.5 ※1
内分泌・代謝内科、血液内科 Endocrinology and Metabolism, Hematology	13,880	37.9		
腎・膠原病内科、呼吸器・感染症内科、心療内科 Nephrology and Rheumatology, Respiratory Medicine and Infectious Disease, Psychosomatic Medicine	25,780	70.4		
消化器内科、肝胆膵内科 Gastroenterology, Hepato-biliary-pancreatology	15,553	42.5		
腫瘍内科 Medical Oncology	1,809	4.9	2,361	9.8
精神科 Psychiatry	21,291	58.2	27,785	115.8
小児科 Pediatrics	16,035	43.8	14,921	62.2
消化器外科、乳腺・内分泌外科 Digestive Surgery, Breast and Endocrine Surgery	21,613	59.1	20,842	86.8
心臓血管外科、呼吸器外科 Cardiovascular Surgery, Thoracic Surgery	9,996	27.3	7,988	33.3
整形外科 Orthopedic Surgery	18,814	51.4	32,715	136.3
形成・美容外科 Plastic, Reconstructive and Aesthetic Surgery	2,771	7.6	5,493	22.9
小児外科 Pediatric Surgery	3,115	8.5	2,385	9.9
皮膚科 Dermatology	6,414	17.5	21,416	89.2
泌尿器科 Urology	10,181	27.8	20,583	85.8
眼科 Ophthalmology	12,075	33.0	26,246	109.4
耳鼻咽喉・頭頸部外科 Otolaryngology, Head and Neck Surgery	12,213	33.4	17,745	73.9
放射線治療科、放射線診断科（放射線科） Radiation Oncology and Diagnostic Radiology (Radiology)	2,695	7.4	12,539	52.2
産科婦人科 Obstetrics and Gynecology	18,614	50.9	34,846	145.2
麻酔科 Anesthesiology	75	0.2	8,354	34.8
脳神経外科 Neurosurgery	13,787	37.7	12,285	51.2
脳神経内科 Neurology	12,808	35.0	14,016	58.4
救急科 Acute Medicine	5,286	14.4	2,045	8.5
リハビリテーション科 Rehabilitation Medicine	0	0.0	613	2.6
病理診断科 Diagnostic Pathology	0	0.0	0	0.0
小計 Subtotal	258,633	706.6	415,382	1,730.8

（令和元年度）

■ 歯科 Dental

診療科 Clinical Divisions	入院 In-patients 延患者数 Total Number of Patients	入院 In-patients 一日平均患者数 Per day	外来 Out-patients 延患者数 Total Number of Patients	外来 Out-patients 一日平均患者数 Per day
口腔外科系歯科 ※2 Oral Surgery, Radiology and Anesthesia	7,455	20.4	777	3.2
			40,499	168.7
矯正・小児系歯科 Orthodontics and Pedodontics			18,150	75.6
予防・保存系歯科 Preventive and Conservative Dentistry			29,300	122.1
摂食機能・補綴系歯科 Prosthodontics and Oral Function			28,625	119.3
歯科総合診療部 General Dentistry and Clinical Education Unit			18,140	75.6
顎関節治療部 Temporomandibular Joint Clinic			6,250	26.0
摂食嚥下機能回復部 Unit of Dysphagia Rehabilitation			4,784	19.9
インプラント治療部 Oral Implant Clinic			3,510	14.6
小計 Subtotal	**7,455**	**20.4**	**150,035**	**625.1**
合計 Sum Total	**266,088**	**727.0**	**565,417**	**2,355.9**

※1　医科総合診療部の患者数を含む。
※2　口腔外科系歯科上段数字は、言語治療室分の患者数を外数で示す。

診療科 Clinical Divisions		入院 In-patients 延患者数 Total Number of Patients	入院 In-patients 一日平均患者数 Per day	外来 Out-patients 延患者数 Total Number of Patients	外来 Out-patients 一日平均患者数 Per day
平成30年度 2018	■ 医科 Medical	254,824	698.1	413,436	1,694.4
	■ 歯科 Dental	8,404	23.0	148,189	607.3
	計 Total	**263,228**	**721.2**	**561,625**	**2,301.7**
平成29年度 2017	■ 医科 Medical	251,990	690.5	405,450	1,661.6
	■ 歯科 Dental	8,412	23.0	143,315	587.3
	計 Total	**260,402**	**713.5**	**548,765**	**2,248.9**

2 手術件数

Number of Operations

（令和元年度）

科名 Clinical Divisions	0～999点	1,000～2,999点	3,000～4,999点	5,000～9,999点	10,000～14,999点	15,000～19,999点	20,000点以上	科別計件数 Cases
循環器内科 Cardiovascular Medicine	1	6	0	0	2	2	2	13
内分泌・代謝内科、血液内科 Endocrinology and Metabolism, Hematology	0	1	0	0	0	0	6	7
腎・膠原病内科 Nephrology and Rheumatology	3	14	2	1	29	61	1	111
呼吸器・感染症内科、心療内科 Respiratory Medicine and Infectious Disease, Psychosomatic Medicine	0	0	0	0	0	3	0	3
消化器内科、肝胆膵内科 Gastroenterology, Hepato-biliary-pancreatology	10	0	0	1	0	0	0	11
精神科 Psychiatry	112	0	0	0	0	0	0	112
小児科 Pediatrics	0	0	0	0	0	0	0	0
消化器外科、乳腺・内分泌外科 Digestive Surgery, Breast and Endocrine Surgery	7	44	6	65	73	76	516	787
心臓血管外科、呼吸器外科 Cardiovascular Surgery, Thoracic Surgery	2	11	8	9	19	24	500	573
整形外科 Orthopedic Surgery	7	74	60	106	69	127	602	1,045
形成・美容外科 Plastic, Reconstructive and Aesthetic Surgery	18	63	57	41	38	37	139	393
小児外科 Pediatric Surgery	9	48	5	27	53	21	41	204
皮膚科 Dermatology	6	31	77	11	31	8	18	182
泌尿器科 Urology	31	132	51	42	124	29	218	627
眼科 Ophthalmology	24	103	98	97	519	43	811	1,695
耳鼻咽喉科 Otorhinolaryngology	2	79	26	88	25	45	374	639
放射線治療科・放射線診断科（放射線科） Radiation Oncology and Diagnostic Radiology (Radiology)	0	0	0	0	0	0	0	0
産科婦人科 Obstetrics and Gynecology	24	4	55	10	8	30	526	657
麻酔科 Anesthesiology	0	13	6	0	1	13	2	35
脳神経外科 Neurosurgery	1	13	2	5	4	9	293	327
脳神経内科 Neurology	0	0	0	0	0	0	0	0
救急科 Acute Medicine	0	0	0	0	0	0	0	0
■ 医科計 Medical Total	**257**	**636**	**453**	**503**	**995**	**528**	**4,049**	**7,421**
口腔再建外科 Oral Reconstructive Surgery	51	169	47	44	26	9	88	434
顎顔面外科 Oral and Maxillofacial Surgery	20	146	25	15	17	6	61	290
歯科麻酔科 Dental Anesthesia	21	5	0	0	0	0	0	26
インプラント治療部 Oral Implant Clinic	25	0	4	1	0	0	0	30
■ 歯科計 Dental Total	**117**	**320**	**76**	**60**	**43**	**15**	**149**	**780**
計 Total	**374**	**956**	**529**	**563**	**1,038**	**543**	**4,198**	**8,201**

※　手術部内で実施した手術件数とする。

眼科外来施行手術	677
歯科外来施行手術	2,528
合計 Total	**11,406**

3 救急外来患者数・救命救急センター入院患者数 *Number of Patients of Medical Emergency Center*

（令和元年度）

救急外来患者			救命救急センター入院患者		
延患者数	うち救急車搬送	うちヘリ搬送	延患者数	1日平均患者数	稼働率
5,004	2,302	257	8,119	22.2	79.2%

4 ドクターヘリ出動要請、出動件数 *Activities of Air Ambulance*

（令和元年度）

出動要請	出動件数	応需要率
1,073	781	77.3%

※　応需率は、出動件数のほか、出動前キャンセル48件を含めて計算しています。

5 総合周産期母子医療センター入院患者数 *Number of In-patients of General Center for Perinatal, Maternal and Neonatal Medicine*

（令和元年度）

延患者数	1日平均患者数	稼働率
8,103	22.1	82.0%

6 分娩件数 *Number of Deliveries*

（令和元年度）

区分 Divisions	件数 Cases
経膣分娩 Vaginal Deliveries	327
帝王切開 Cesarean Deliveries	210
合計 Total	**537**

7 リハビリテーション件数 *Number of Rehabilitation Cases*

（令和元年度）

区分 Divisions		件数 Cases						単位数 Number of Units					
		入院 In-patients			外来 Out-patients			入院 In-patients			外来 Out-patients		
		医科 Medical	歯科 Dental	計 Total	医科 Medical	歯科 Dental	計 Total	医科 Medical	歯科 Dental	計 Total	医科 Medical	歯科 Dental	計 Total
脳血管リハビリテーション(I) Cerebrovascular	PT	11,821	0	**11,821**	36	0	**36**	13,537	0	**13,537**	59	0	**59**
	OT	8,198	0	**8,198**	173	0	**173**	10,071	0	**10,071**	241	0	**241**
	ST	4,780	139	**4,919**	495	769	**1,264**	6,787	205	**6,992**	1,157	1,340	**2,497**
廃用症候群リハビリテーション(I) Disuse	PT	2,662	0	**2,662**	0	0	**0**	2,871	0	**2,871**	0	0	**0**
	OT	486	0	**486**	0	0	**0**	586	0	**586**	0	0	**0**
	ST	56	0	**56**	1	0	**1**	64	0	**64**	2	0	**2**
運動器リハビリテーション(I) Locomotive Organ	PT	9,012	0	**9,012**	1,098	0	**1,098**	10,693	0	**10,693**	1,210	0	**1,210**
	OT	1,919	0	**1,919**	404	0	**404**	2,438	0	**2,438**	542	0	**542**
呼吸器リハビリテーション(I) Respiratory	PT	2,719	0	**2,719**	32	0	**32**	3,243	0	**3,243**	42	0	**42**
	OT	227	0	**227**	0	0	**0**	276	0	**276**	0	0	**0**
がん患者リハビリテーション Cancer patients	PT	4,793	0	**4,793**	0	0	**0**	5,149	0	**5,149**	0	0	**0**
	OT	431	0	**431**	0	0	**0**	487	0	**487**	0	0	**0**
	ST	3	0	**3**	0	0	**0**	3	0	**3**		0	**0**
心大血管リハビリテーション(I) Cardiovascular	PT	4,475	0	**4,475**	30	0	**30**	5,198	0	**5,198**	32	0	**32**
摂食機能療法（摂食嚥下リハビリテーション）（30分以上の場合）		3	326	**329**	0	6,091	**6,091**						
摂食機能療法（摂食嚥下リハビリテーション）（30分未満の場合）		0	1	**1**	0	0	**0**						

区分 Divisions	PT	OT	ST	摂食機能療法 Eating Function Therapy	計 Total
総延べ件数 Total Cases	36,678	11,838	6,243	6,421	**61,180**
総延べ単位数 Total Number of Units	42,034	14,641	9,558		**66,233**

PT（Physical Therapist）……理学療法士
OT（Occupational Therapist）… 作業療法士
ST（Speech Therapist）……言語聴覚士

8 臨床検査件数 *Number of Clinical Examinations*

■ 医科 Medical

区分 Clinical Divisions		入院			外来検査（内数） Out Orders		
		入院 In-patients	外来 Out-patients	合計 Total	入院 In-patients	外来 Out-patients	合計 Total
一般検査 General Examination		34,858	129,615	164,473	74	129	203
血液学的検査 Hematology		315,504	394,544	710,048	551	1,249	1,800
生化学的検査 Clinical Chemistry		1,279,589	2,098,091	3,377,680	6,029	21,768	27,797
内分泌学的検査 Endocrinology		31,600	99,225	130,825	8,765	20,562	29,327
免疫学的検査 Serology		145,352	337,411	482,763	13,180	33,654	46,834
微生物学的検査 Microbiology		19,476	9,169	28,645	13	57	70
病理学的検査 Pathologycal Examination		8,253	10,806	19,059	420	621	1,041
その他の検査 Other Specimen Examinations		2,466	3,920	6,386	649	1,468	2,117
循環器機能 Circulatory		10,523	16,123	26,646			
生理機能検査 Physiology	脳・神経 Nervous	815	1,653	2,468			
	呼吸機能 Respiratory	1,765	10,151	11,916			
	耳鼻科 Otolaryngology	712	14,039	14,751		19	19
	眼科 Ophthalmology	24,754	96,017	120,771	2	153	155
	超音波 Ultrasonic	9,166	18,905	28,071			
その他（生体） Others		80,518	4,569	85,087			
検体採取 Specimen Collection		4,122	131,665	135,787			
内視鏡検査 Endoscopy		3,710	10,082	13,792			
分類コード未収録 Unclassified		719	2,071	2,790			
その他各科特有なもの Miscellaneous							
小計 Subtotal		**1,973,902**	**3,388,056**	**5,361,958**	**29,683**	**79,680**	**109,363**

（令和元年度）

■ 歯科 Dental

区分 Clinical Divisions		入院			外来検査（内数） Out Orders		
		入院 In-patients	外来 Out-patients	合計 Total	入院 In-patients	外来 Out-patients	合計 Total
一般検査 General Examination		47	699	746			
血液学的検査 Hematology		3,423	6,364	9,787			
生化学的検査 Clinical Chemistry		18,112	28,973	47,085		878	878
内分泌学的検査 Endocrinology		9	30	39	3		3
免疫学的検査 Serology		1,248	7,036	8,284	13	97	110
微生物学的検査 Microbiology		132	460	592			
病理学的検査 Pathologycal Examination		308	892	1,200			
その他検査 Other Examination							
生理機能検査 Physiology	循環器機能 Circulatory	29	674	703			
	脳・神経 Nervous	3	786	789			
	呼吸機能 Respiratory	20	1,137	1,157			
	耳鼻科 Otolaryngology	10	223	233			
	眼科 Ophthalmology						
	超音波 Ultrasonic	60	1,073	1,133			
その他（生体） Others		308	392	700			
検体採取 Specimen Collection		14	2,070	2,084			
内視鏡検査 Endoscopy		13	288	301			
分類コード未収録 Unclassified		90	9,473	9,563			
その他各科特有なもの Miscellaneous							
小計 Subtotal		**23,826**	**60,570**	**84,396**	**16**	**975**	**991**
合計 Total		**1,997,728**	**3,448,626**	**5,446,354**	**29,699**	**80,655**	**110,354**

7 病院開設承認等 Designation of Medical Institutions

1 病院開設承認等 *Designation of Medical Institutions*

区分	承認年月日
医療法による病院開設承認	昭和23年 10月 27日
医療法による特定機能病院の承認	平成 6年 12月 1日

2 看護体系 *Nursing System*

区分			承認年月日	病床数
特定機能病院	一般病棟	7:1看護 看護職員(7割以上)	平成28年 9月 1日	763
	精神病棟	13:1看護 看護職員(7割以上)	平成23年 7月 1日	64

3 先進医療 *Advanced Medical Service*

項	番号	先進医療の名称	適応症	実施科	承認年月日
A	11	歯周外科治療におけるバイオ・リジェネレーション法	歯周炎による重度垂直性骨欠損	歯周病科	平成20年 4月 1日
B	1	パクリタキセル静脈内投与(一週間に一回投与するものに限る。)及びカルボプラチン腹腔内投与(三週間に一回投与するものに限る。)の併用療法	上皮性卵巣がん、卵管がん又は原発性腹膜がん	産科婦人科	平成23年 4月 1日
B	27	リツキシマブ点滴注射後におけるミコフェノール酸モフェチル経口投与による寛解維持療法	特発性ネフローゼ症候群(当該疾病の症状が発症した時点における年齢が十八歳未満の患者に係るものであって、難治性頻回再発型又はステロイド依存性のものに限る。)	小児科	平成27年 5月 1日
B	17	放射線照射前に大量メトトレキサート療法を行った後のテモゾロミド内服投与及び放射線治療の併用療法並びにテモゾロミド内服投与の維持療法	初発の中枢神経系原発悪性リンパ腫(病理学的見地からびまん性大細胞型B細胞リンパ腫であると確認されたものであって、原発部位が大脳、小脳又は脳幹であるものに限る。)	脳神経外科	平成27年 5月 1日
B	23	ベペルミノゲンペルプラスミドによる血管新生療法	閉塞性動脈硬化症又はビュルガー病(血行再建術及び血管内治療が困難なものであって、フォンタン分類III度又はIV度のものに限る。)	循環器内科	平成27年 9月 1日
A	21	LDLアフェレシス療法	難治性高コレステロール血症に伴う重度尿蛋白症状を呈する糖尿病性腎症	腎・膠原病内科	平成27年11月 1日
B	34	デモゾロミド用量強化療法	膠芽腫(初発時の初期治療後に再発又は増悪したものに限る。)	脳神経外科	平成29年10月 1日
B	20	全身性エリテマトーデスに対する初回副腎皮質ホルモン治療におけるクロピドグレル硫酸塩、ピタバスタチンカルシウム及びトコフェロール酢酸エステル併用投与の大腿骨頭壊死発症抑制療法	全身性エリテマトーデス(初回の副腎皮質ホルモン治療を行っている者に係るものに限る。)	腎・膠原病内科	令和元年 6月 1日

4 その他 *Other*

事項	認定年月日
臨床修練指定病院(外国医師・外国歯科医師)	昭和63年 3月29日
エイズ治療ブロック拠点病院(関東甲信越ブロック)	平成 9年12月12日
(財)日本医療機能評価機構 病院機能評価認定	平成11年12月20日(更新認定 平成26年12月20日)
地域がん診療連携拠点病院	平成19年 1月31日
難病医療拠点病院(新潟県)	平成19年12月 1日
エイズ治療の中核拠点病院(新潟県)	平成19年12月20日
地域災害拠点病院(新潟県)	平成20年 4月 1日
新潟DMAT指定医療機関	平成20年 4月 1日
肝疾患診療連携拠点病院(新潟県)	平成21年 3月31日
高度救命救急センター	平成21年10月 1日
総合周産期母子医療センター	平成22年 4月 1日
基幹災害拠点病院(新潟県)	平成23年10月 1日
基幹原子力災害拠点病院	平成30年11月28日
新潟県難病診療連携拠点病院	平成31年 4月 1日
新潟県アレルギー疾患医療拠点病院	平成31年 4月 1日
がんゲノム医療拠点病院	令和元年 9月19日

8 医療機関の指定状況 Legal Authorization of Medical Services

法令等の名称 Statutory Authorization		指定年月日 Date of Authorization
健康保険法による特定承認保険医療機関 Medical Institution Authorized to Provide Advanced Medical Services Under The Health Insurance Act		昭和63年 1月 1日
消防法による救急医療（三次救急医療機関） Authorized Emergency Medical Institution Under The Fire Service Act (Secondary Emergency Medical Institution)		昭和55年 10月 1日
生活保護法による医療機関 Authorized Medical Institution Under The Public Assistance Act		昭和52年 2月 1日
国民健康保険法による（特定承認）療養取扱機関 Authorized Medical Institution Under The Public Assistance Act		昭和63年 1月 1日
労働者災害補償保険法による医療機関 Authorized Medical Institution (Providing Advanced Medical Services) Under The National Health Insurance Act		昭和52年 2月 1日
地方公務員災害補償法による医療機関 Authorized Medical Institution Under The Local Government Employees' Accident Compensation Act		昭和52年 2月 1日
原爆医療法 Act for Atomic Bomb Suffers' Medical Care	一般医療 General Medical Services	昭和61年 5月 1日
	認定医療 Specific Medical Services	昭和32年 5月 1日
母子保健法 Maternal and Child Health Act	妊娠乳児健康診断 Maternity and Infant Health Examination	昭和60年 8月 1日
	養育医療 Medical and Nursing Care	昭和34年 9月 25日
障害者総合支援法 Services and Supports for Persons with Disabilities Act	育成医療 Medical Services for Children	平成18年 4月 1日
	更生医療 Rehabilitation	
	精神通院医療 Outpatient Psychiatric Care	
戦傷病者特別援護法 War Veterans' Relief Act	療養給付 Medical Services Authorized	昭和30年 3月 30日
	更生医療 Rehabilitation	昭和30年 3月 30日
感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する指定医療機関（結核指定医療機関） Authorized Medical Institution for Tuberculosis Care		平成19年 6月 8日

循環器内科

診療科長
尾﨑和幸

診療科長からのメッセージ

循環器内科では、心筋梗塞・心不全・不整脈といった心血管疾患に対する先進医療のほか、それらの病気を診断するため、高度な診断技術を駆使しています。また、基礎的な研究を推進し、それらの結果に基づいた新しい循環器疾患治療の開発を行っています。診療所や病院と連携をとりながら、地域医療の充実化を図っています。

外来及び入院診療

循環器疾患の予防は、近隣のかかりつけ医を決めて、日頃より生活習慣病を管理することが重要ですが、不幸にも急性心筋梗塞や重篤な不整脈・心不全などに陥った場合、一刻を争うため、緊密な病診連携が最も重要な領域です。当科では、救急部や二次病院と常に連絡を取り合い、24時間対応可能な協力体制を築いております。また、定期的に勉強会を行うことで、かかりつけ医の先生方と、より良い循環器診療の提供に取り組んでいます。

治療方針

わが国は、長寿化に伴う高齢者の増加や欧米化して久しい生活習慣から、医療の進歩にも関わらず、心血管疾患（心筋梗塞などの虚血性心疾患・心不全・不整脈など）の患者さんが増え続けており、悪性腫瘍に次いで日本人の死因の第二位となっています。当科はそれら心血管疾患に対する最先端の治療を提供するだけでなく、その発症に深く関わっている生活習慣病に対する治療にも重点を置き、その予防にも携わっております。

特色と主な実績

すべての領域において最新の画像診断を駆使し、高度のカテーテル治療を行い、県内の他医療機関からの紹介も年々増加しています。昨年の冠動脈へのカテーテル治療は270件、肺動脈や末梢動脈および構造的心疾患に対するカテーテル治療は90件、カテーテル心筋焼灼術は240件、デバイス植え込みも140件に及び、県内でもTOP３に入る総症例数です。また、重症虚血肢に対する血管再生治療など高度先進医療も行っています。

内分泌・代謝内科

診療科長
曽根博仁

診療科長からのメッセージ

糖尿病を中心とする脂質異常症、肥満症、高血圧、痛風などの生活習慣病、甲状腺や脳下垂体、副腎などの内分泌（ホルモン）の病気の診療を行います。食事・運動などの生活習慣指導を重視しながら、最新の検査や薬剤を駆使して診療しています。一般市民に無償公開している「糖尿病・生活習慣病教室」も是非ご参加ください。

外来及び入院診療

初診を含む外来診療は、月～金曜の毎日行っておりますので電話予約の上受診してください。専門スタッフによる「糖尿病・生活習慣病教室」は、他院通院中の患者さんやご家族でも予約なしで随時受講可能です。入院診療は、すべての内分泌疾患を受け入れると共に、糖尿病、肥満症については、良好なコントロール達成のための教育入院を、遠隔地からの患者さんも含めて行っています。退院後にかかりつけ医に紹介することも可能です。

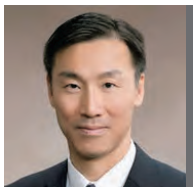
治療方針

糖尿病・肥満症は、科学的根拠に基づく食事/運動/禁煙などの生活習慣療法を最重視しつつ、最新の薬物療法も取り入れ合併症予防と健康寿命延伸を目標に治療しています。また持続血糖モニターやインスリンポンプ療法など最新治療も行います。内分泌疾患では、ホルモン機能検査や甲状腺腫瘤の超音波下穿刺吸引細胞診を含む専門検査による診断と、それに基づく各科との連携による手術治療、放射線アイソープ治療等も実施しています。

特色と主な実績

ビッグデータを駆使し各患者さんに最適な診療を提供する医学研究の世界的拠点です。県の「にいがた新世代ヘルスケア情報基盤」とも連動し、最新の科学的データに基づく診療を目指しています。自治体や健診機関、社会団体とも協力し、講演会や無料HbA１c測定会、糖尿病テキストの作成なども含む社会啓発活動にも力を入れています。甲状腺腫瘍など含めた内分泌疾患についても、県全域からご紹介をいただいています。

血液内科



診療科長
曽根博仁

診療科長からのメッセージ

白血病、悪性リンパ腫、骨髄腫などの造血器腫瘍を中心とするすべての血液疾患に対し、高度な技術を駆使した的確な診断と、最新の医学研究成果（エビデンス）に基づく最先端の治療を行っており、県内多数の関連病院の中核施設ともなっており、新薬を用いた治療開発や造血幹細胞移植療法も積極的に行っていますので是非ご相談ください。

外来及び入院診療

外来診療：週日は毎日午前に２名の医師が様々な血液疾患を対象に診療に当たります。火曜日と水曜日は午後に専門外来も行われています。通院治療室を用いて外来化学療法も行っています。入院診療：一人一人に患者さんに対し、専門指導医を含む複数の医師や看護師・薬剤師など診療スタッフが全人的チーム医療を行っています。バイオクリーンルームや集学的治療病棟などの設備面も充実しています。

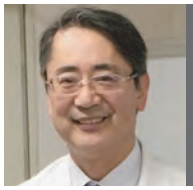
治療方針

広範な血液疾患に対して各種検査（血液検査、画像検査、骨髄検査、組織生検など）の結果に基づく適切な診断を行い、治療方針を決定します。患者さんの全身状態を把握した上で、病態に応じたエビデンスに基づく最新治療を行います。抗体薬や分子標的薬など新規薬剤の導入も積極的に行っています。適応に応じて造血幹細胞移植も治療に導入しています。患者さんが安心して治療に専念できるような医療を心がけています。

特色と主な実績

造血幹細胞移植は県内最多数を実施しており、白血病などの難治性造血器腫瘍に対してHLA半合致移植も積極的に行っています。悪性リンパ腫は特殊検査を駆使して正確な病型診断を行い、患者さんの全身状態に合わせた最適な治療を行っています。多施設共同で新規治療法の開発を行い、成果をあげています。多発性骨髄腫は新規薬剤と自家末梢血幹細胞移植併用大量化学療法を組み合わせた最先端治療を導入しています。

腎・膠原病内科



診療科長
成田一衛

診療科長からのメッセージ

私たちは慢性腎臓病、急性腎障害、高血圧、糖尿病、膠原病を中心に診療しています。私たちは高い専門性を持つと同時に幅広い総合力を持つよう心掛けています。慢性腎臓病は単なる腎臓病でなく、血圧、血糖、脂質、骨代謝、酸塩基、電解質、貧血などの管理が重要で、腎臓を通して全身を診る姿勢を追及しています。

外来及び入院診療

外来は腎・高血圧（新患、１、２）、糖尿病・腎臓、リウマチ・膠原病の５つの診察室で行っています。病棟は３チームから成るチーム制を導入しており、指導医、専門医、専攻医、研修医など１チーム５～７名の医師で主治医団を形成しています。腎・膠原病内科は34床が割り当てられていますが、他科入院中の透析患者さんや集中治療室で急性血液浄化を必要とする方も多く、常時50～60人の入院患者さんの診療に当たっています。

治療方針

患者さんの症状や検査結果から診断します。腎生検の適応がある症例では積極的に行うようにしています。治療方針は学会のガイドラインを参考にするのはもちろんのこと、国内外の文献を参照し、患者さんやご家族と相談して最も適した治療方針を決定するよう心掛けています。教授回診や症例検討会、チーム検討会で議論し、多くの意見を取り入れ、先進的かつ安全な、より良い医療を提供できるようにしたいと考えています。

特色と主な実績

本邦初の腎生検を行い、透析アミロイドーシスの原因物質β２ミクログロブリンの吸着カラムを開発するなど、我が国の腎臓病学の発展に貢献してきました。成田一衛教授は2020～2022年度厚生労働科学研究難治性疾患政策研究「難治性腎障害に関する調査研究」班の研究代表者を務め、IgA腎症、急速進行性糸球体腎炎、ネフローゼ症候群、多発性嚢胞腎の疾患登録・調査研究および診療ガイドライン作成を行っています。

呼吸器・感染症内科

診療科長
菊地利明

診療科長からのメッセージ

私たちが担当する診療領域は、肺癌に代表される胸部悪性腫瘍、生活習慣病としてのCOPDや睡眠時無呼吸症候群、アレルギー性疾患の喘息、さらには肺炎や後天性免疫不全症候群などの感染症と多岐に亘ります。これらの疾患にお困りの患者さんへ、最良の医療を提供することを心掛けて常に診療しております。

外来及び入院診療

外来診療：毎日午前・午後に３～９名の医師が診療致します。
入院診療：呼吸器内科、感染症内科専門医が豊富な知識と確かな技術を生かしつつ、細やかな全人的医療を行います。次世代の優秀な医師育成も当科の重要な責務として、力を注いでいます。

治療方針

呼吸器・感染症内科は、非常に幅広い病気、年齢層の患者さんを診察する科です。治験や臨床研究など高度専門的な治療を行うことはもちろん、それぞれの患者さんの考えを尊重し、最適な治療を提供いたします。

特色と主な実績

呼吸器・感染症内科で扱う肺癌、喘息、肺炎等の治療の進歩は目覚ましいものがあります。近年の個別化医療の進歩に伴い、治療方針決定に必要な検査は複雑化してきました。当科では最先端の検査を導入して診断速度・精度を高め、診断困難な病気や重症患者さんの診療を行っています。特に免疫治療を含めた肺癌の集学的治療では県内では随一の症例数となっています。

心療内科

診療科長
菊地利明

診療科長からのメッセージ

心療内科では、心身医学の臨床的実践、すなわち全人的医療の実践及びストレスと身体疾患との関係について配慮した診療を行っています。平成３年より大学病院外来に心身医学科外来という名称で設置され、現在は心療内科外来として診療し活動しています。

外来及び入院診療

心療内科外来では、新患は、紹介による「完全予約制」で、予約診療は月曜、火曜、水曜、木曜（自律訓練法外来）に行っています。外来担当スタッフは、３名で、月・水・木曜日は１名、火曜日は２名で外来診療を行っています。また歯科口腔領域では、歯科麻酔科の医師の協力を得て連携しています。特殊医療として、第４木曜日午後に、自律訓練法外来を行っています。

治療方針

身体疾患の中で、その発症や経過に心理社会的因子が密接に関与し、器質的ないし機能的障害が認められる病態（一部の気管支喘息や過敏性腸症候群など）が認められる患者さんを主な診療の対象とし、治療的自己を重視した心身相関について着目した診療をしています。器質的所見が乏しいにもかかわらず、身体症状がある機能性身体症候群に対する心身医学アプローチも行ってます。

特色と主な実績

日本心身医学会（1991）が定義する「心身症：本態性高血圧症、過敏性腸症候群、気管支喘息、糖尿病等」を中心に心身症の専門医等が診療にあたっています。一般的治療で、なかなか改善が困難な場合、院内各科の他、地域の診療所や病院からの紹介により、心身相関に注目し、心身医学的アプローチを実施します。特に内科領域の心身症の専門治療を行っているのは、新潟県内で唯一当科のみとなります。

消化器内科・肝胆膵内科

診療科長
寺井崇二

診療科長からのメッセージ

消化器疾患の標準診断・治療を実施しています。その上で、治せない病気に挑み、また診断のつかない消化器疾患に取り組むことで、新しい診断・治療を開発し、病気に悩む患者さんの未来を変えるというMission & Visionで、日々の臨床に取り組んでいます。

外来及び入院診療

当科は、日本消化器病学会・日本肝臓学会・日本消化器内視鏡学会などが認定した専門医や指導医が患者さんの診療に当たっています。
学会の指導医、専門医、若手医師の7－8名で構成される4つの診療班で診療しています。教授回診や各種検討会で検討された検査・治療方針に基づき、入院患者さんの検査・治療に当たっております。現在日本で行える最高水準の消化管・肝胆膵領域の内科診療を提供していきます。

治療方針

患者様に対する治療方針は、毎週当科で行われる教授回診、各種検討会や内科・外科・放射線科医が集まって行われるキャンサーボードでの話し合いの元に決定しています。また安心、安全な医療の実践を目指しています。このような環境の中で、次世代の医療人として“総合消化器内科医”、Clinician-Scientistを育成しています。

特色と主な実績

標準的な消化器診療は全て実施しています。
重症肝炎、重症膵炎は大学を中心に県内全域にネットワークを構築しています。日本初の非代償性肝硬変症に対する他家脂肪由来間葉系幹細胞の治験を行っており、食道アカラシアに対する経口内視鏡的筋層切除術（POEM）や高度肥満症に対する内視鏡的胃内バルーン留置術（自由診療）を行っています。小腸内細菌異常増殖症の診断、最新の内視鏡手術、肝硬度測定も実践しています。

脳神経内科

診療科長
小野寺　理

診療科長からのメッセージ

脳神経内科は、脳・神経・筋肉の疾患（認知症・脳梗塞・パーキンソン病など）や症状（記憶力の低下、手の痺れや動かしにくさ、歩行障害、ふるえなど）の診断、治療を行います。新潟大学には国立大学附置研究所では唯一の脳研究所があります。当科は脳研究所とも密接に連携し、あらたな治療法開発や臨床治験も行っています。

外来及び入院診療

外来診療は木曜日を除き、4名前後の神経内科専門医（頭痛、認知症、脳梗塞など、総合的な神経診療のエキスパート）が診察にあたります。新患外来は紹介制を取っています。入院診療は、神経内科専門医と、後期レジデント、初期レジデントのチーム制で24時間体制で診療にあたっています。多くの病気で全国の大学病院の中でも有数の症例経験数があり、さらに国際的な治療研究にも参画し先進的治療の提供につとめています。

治療方針

脳神経内科は脳梗塞など分単位での治療が必要な疾患から、認知症のような月・年単位で変化する疾患まで幅広く対応し、それぞれで的確な早期診断。最善の治療を心がけています。常に複数の専門医により診療内容を確認し、診療にあたります。疾病としての側面のみではなく、患者さんのおかれている環境や、人生観を尊重します。関連病院とも連携しつつ、患者さんに寄り添った最善の医療を提案し、それを実践してまいります。

特色と主な実績

当院の脳神経内科は、日本で最も歴史のある脳神経内科の一つであり、全国有数の様々な症例の経験数を誇ります。その歴史から新潟県は脳神経内科医数も多く、全国的にも脳神経内科の診療レベルは高度な県です。さらに我が国で唯一の脳疾患の研究施設、脳研究所と連携しています。最先端の診断、医療から、地域に根ざした診療まで、様々な診療体制で、新潟県の脳・神経・筋疾患の皆様に、最善の医療を安全に提供しています。

腫瘍内科

診療科長
西條康夫

診療科長からのメッセージ

腫瘍内科は、がん薬物療法（化学療法）を臓器横断的に行う診療科です。がん薬物療法は、手術療法、放射線療法と共に、がん治療の中心となっています。がん薬物療法には、分子標的治療薬や免疫チェックポイント薬が導入され、治療成績が急速に向上しています。

外来及び入院診療

他施設または他診療科から紹介されたがん患者さんのがん薬物療法を行います。原則、入院でがん薬物療法を導入し、副作用などを観察後に、外来で治療を継続します。エビデンスに基づいて最新・最良の治療を行うとともに、副作用を軽減する支持療法にも力を入れております。また、がん薬物療法にとどまらず、他診療科や緩和ケアチームと協力してがん患者さんを包括的に診療しています。

治療方針

小児がんと造血器腫瘍を除く、全てのがん患者さんの「がん薬物療法」に対応します。最新の治療法を行いつつ、副作用の予防・軽減に努め、安全ながん薬物療法に努めています。チーム診療を行い、治療方針などは全て診療科内で検討されています。また、科内だけではなく、院内キャンサーボードに提示して、積極的に他診療科の意見も聞いています。

特色と主な実績

経験豊富ながん薬物療法専門医が治療を担当しています。消化器がんや乳がんの他、甲状腺がん、肉腫、原発不明がんなどの希少がんの治療経験が豊富です。併存疾患や併用薬剤を有する患者さんに対しても、それらの背景を考慮した至適ながん薬物療法を行っています。

精神科

診療科長
染矢俊幸

診療科長からのメッセージ

精神科では、統合失調症、気分障害、発達障害など様々な精神疾患に対して、患者さんの立場にたった、最新の専門的な医療を提供しています。「臨床を重視し、その中から問題を発見して、自ら科学的に解決する」という姿勢を大切に、皆が協力して臨床・教育・研究に取り組んでいます。

外来及び入院診療

外来診療：火曜日を除く平日午前の新患外来では2名、再診外来では5名程度の医師が診療を担当しています。「うつ病」、「統合失調症」、「児童思春期」、「物忘れ」などの専門外来を設置しています。
入院診療：日本精神神経学会、日本臨床精神神経薬理学会、日本総合病院精神医学会、日本認知症学会、日本小児精神神経学会など各種学会認定専門医と研修医が診療に当たります。公認心理師による心理検査なども行っています。

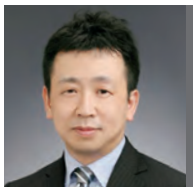
治療方針

統合失調症や気分障害、発達障害など様々な「こころの病」に対する最先端の薬物療法や精神療法を取り入れ、受診された患者さんすべての「こころの悩み」を少しでも減らすことができるように日々取り組んでおります。
入院診療では、医師、看護師、公認心理師、精神保健福祉士、薬剤師、栄養士など、スタッフがお互いに情報共有を図りながら、患者さんが安心して療養できる環境を目指しています。

特色と主な実績

高度先進医療を牽引する基幹的総合病院という特色を活かし、内科や麻酔科と連携しながら、治療抵抗性統合失調症に対するクロザリルを用いた薬物療法、難治性うつ病に対する修正型電気けいれん療法（mECT）に積極的に取り組んでいます。また副作用や身体合併症に迅速に対応できるシステムを確立し海外に発信しています。精神科リエゾンチームによる患者サポート、せん妄予防を目的とした睡眠薬適正使用にも取り組んでいます。

小児科



診療科長
齋藤昭彦

診療科長からのメッセージ

「子どもは、大人のミニチュアではない」と言われます。子どもは、大人をただ小さくしただけではなく、年齢による特徴があり、それに合った診療が必要です。我々小児科医は、子どもたちが立派な大人になれるようにサポートし、そして、子どもたちが困っていることを社会に代わりに伝える大切な役割があります。

外来及び入院診療

外来診療：原則予約制で感染症、腎臓、内分泌・代謝、血液・腫瘍、循環器、新生児、リウマチ・膠原病、神経の専門医が担当します。急患はこの限りではありません。セカンドオピニオンも受け入れています。
入院診療：上記専門医と後期研修医が24時間体制で診療を行います。小児がん医療センター、総合周産期母子医療センター、高次救命災害治療センターと連携し、造血細胞移植、新生児医療、高次救命救急・集中医療も行います。

治療方針

大学病院の使命として専門、先進医療を行います。診療の際には医師・看護師のみならず保育士、チャイルド・ライフ・スペシャリスト、院内学級教諭といった多職種が関わり、病気だけをみるのではなく患者さん及びご家族を全人的にみるよう心掛けています。子どもの権利を重視し、インフォームドコンセント及びアセントにより年齢に応じた説明を行い、理解を得ることで本人が積極的に治療を受けられるよう心掛けています。

特色と主な実績

当科の特徴として、県内外からの感染症コンサルテーションの受付、小児の血液・腫瘍患児の診療、小児の心臓手術（カテーテル心房中隔欠損閉鎖術の認定施設）の実施、内分泌代謝・糖尿病専門施設として希少難病疾患の診療・新生児マススクリーニング・学校保健への関与、小児の腎移植・小児腎生検の実施、小児のリウマチ疾患の診療、新生児・未熟児の診療などがあげられます。これらの多くは、県内で当科しか行っていないものです。

消化器外科

診療科長
若井俊文

診療科長からのメッセージ

消化器外科は約30名の外科医が所属し、上部消化管（食道、胃）、下部消化管（小腸、大腸）、肝胆膵・移植を中心とした診療を行っています。主に悪性腫瘍、がんを対象とし、取り組んでいるテーマは「R0（遺残腫瘍の無い）手術の確立」です。「術後の再発、癌遺残の根絶方法を開発する」という一念で診療を行っています。

外来及び入院診療

外来は、月、水、金を中心にそれぞれ専門分野の医師を配置して、患者さんのニーズに応えられるようにしています。一般病床は57床で、チーム主治医制で診療にあたっております。手術日は、火、木、金であり、年間約800例の手術を行っております。大きな侵襲を伴う手術や重症例は、術後に集中治療室（ICU）で集中管理を行うこともあります。また、月、水には内視鏡検査日を設け、内視鏡検査、治療も積極的に行っております。

治療方針

疾患の正確な診断に基づき、低侵襲の鏡視下手術あるいは肛門温存手術をはじめとする機能温存手術と、術後再発や癌遺残を根絶する集学的治療を心がけています。他院で治療困難とされた患者さんや臓器移植を希望する患者さんにも対応しています。また、腹部緊急疾患に対応すべく24時間体制で緊急診療も行っています。常に患者さんを中心とした医療を展開し、最先端の医療を全人にお届けできるよう日夜一丸となって努力しています。

特色と主な実績

食道や胃、大腸だけでなく、肝臓、膵臓領域でも鏡視下手術を取り入れつつ、根治性を追求した拡大手術も実施しています。ロボット支援手術を導入し大腸領域から開始しています。手術だけではなく、がんの遺伝子異常に基づいた個別化治療（がんゲノム医療）を取り入れ、治療成績向上を目指しています。また、難病に指定されている潰瘍性大腸炎に対する治療は全国屈指の施設です。１型糖尿病に対する膵臓移植にも取り組んでいます。

乳腺・内分泌外科

診療科長
若井俊文

診療科長からのメッセージ

乳腺・内分泌外科は約10名の外科医が所属し、乳腺科として診断から治療までを一貫して診療を行っています。主に乳がんを対象とし、3つの“R”：residual遺残腫瘍ゼロ、recurrence術後再発ゼロ、regional medicine地域医療をスローガンとして掲げ、診療を行っております。

外来及び入院診療

外来は、月、水に初診外来、月、水、金に再診外来を行っています。手術日は、火、木、金であり、年間約150例の乳がんの手術を行っております。治療を必要とする患者さんに速やかに対応するため、新患外来は予約制とさせて頂いております。外来は地域の病院と連携して、診療を行っております。治療は、より低侵襲で整容性に優れた手術や、患者さんの希望に応じて、形成外科医と連携して乳房再建手術を実施しています。

治療方針

特に乳がんの治療に重点をおいています。乳がんの治療は、手術治療、薬物治療、放射線治療が3本柱となります。乳腺専門医、薬物療法専門医の医師を中心として、様々な分野の医師、医療スタッフと協力し、患者さんに寄り添いながら最善、最良の医療が提供できるよう日々努力しています。遺伝性乳がんにも取り組んでおり、希望される患者さんには、遺伝カウンセリングや遺伝検査を提供できる体制を整えております。

特色と主な実績

当院の乳がん治療は、総合病院の特色を生かし病状の進行した患者さんや様々な併存症をもつがん患者さんに対応しています。乳房再建手術には、人工乳房（シリコンインプラント）を用いる方法と、自身の筋肉や脂肪組織（自家組織）を移植する方法がありますが、希望に応じて形成外科医と連携して行っています。妊娠期の乳がんの治療や妊孕性温存を支援します。また、がんゲノム医療に積極的に取り組み、新しい医療を築いていきます。

心臓血管外科

診療科長
白石修一

診療科長からのメッセージ

心臓血管外科では新生児から高齢者まで全ての年齢層の心臓病・血管疾患に対する外科治療のスペシャリストが、関連各科・部署と綿密に連携しそれぞれの患者様に最適な治療を提供しています。定型的な手術はもちろん、低侵襲手術や高難度手術などの広い範囲に対応しており、新潟県の最後の砦としての役割を果たしています。

外来及び入院診療

外来診療：小児心臓外科を水曜午前、成人心臓血管外科を月・水・金曜の午前、新患外来を金曜午前に開設しています。また、災害後のエコノミークラス症候群の予防や加療について先進血管病・塞栓症治療予防講座の外来を月曜日に開設しています。
入院診療：スタッフ（成人心臓4名、小児心臓3名）、担当医4名、レジデント2名が24時間体制で診療に当たります。

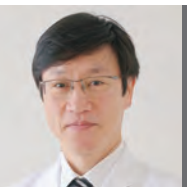
治療方針

当科は先天性心疾患、後天性心疾患、血管疾患の3分野を対象とし、常に最先端の技術と知識を導入して病態の的確な把握、迅速な診断と確実な手術・治療を行っています。循環器内科、小児科、放射線科、集中治療科など複数科の専門医と常に連携して治療方針の決定などを行うことで、患者様のニーズに合った医療を展開するよう心がけています。

特色と主な実績

小児心臓外科：軽症例から新生児やNorwood手術などの重症例まで全領域の手術を年間150例以上行い、成人先天性心疾患にも対応しています。
成人心臓外科：心拍動下バイパス手術や弁形成手術などの経験も多く、最近では低侵襲の小開胸心臓手術（MICS）も積極的に行っています。
血管外科：大動脈瘤に対するステントグラフト治療を数多く行っており、ハイブリッド手術室の開設に伴い更なる手術数増加が予想されます。

呼吸器外科



診療科長
土田正則

診療科長からのメッセージ

呼吸器外科では呼吸器疾患の診療と手術に精通したスペシャリストが、関連領域の診療科と連携をとりながら最適な治療を提供します。定型的な手術、体に負担の少ない低侵襲手術、困難例に対するチャレンジングな手術など、さまざまな対応が可能です。
新潟県内の治療をリードし、最後の砦としての役割を果たしています。

外来及び入院診療

外来診療：月・水・金の午前中に呼吸器外科専門医資格を有する医師が診療に当たります。
入院診療：スタッフ４名、担当医とレジデントが24時間体制で診療を担当します。手術は主に木曜、金曜に実施していますが、治療を急ぐ手術に対しては緊急で対応しています。呼吸器内科との連携が円滑で、感染症や腫瘍に対する内科治療にも対応しています。

治療方針

病態の適格な把握、迅速な診断、手術・治療を心がけています。悪性腫瘍の治療方針は、院内のキャンサーボード（腫瘍検討会）で呼吸器内科、腫瘍内科、放射線科など他科との合同協議で決定し実施します。常に関連科と連携しながら複数の専門医によって診療を行い、患者さんのニーズに合った最新・最適な医療を提供するように心がけています。

特色と主な実績

肺癌に対しては、縮小手術、胸腔鏡手術、拡大手術と患者さんの状態にあった高度な医療を提供しています。近年は低侵襲治療として肺癌手術全体の７割で胸腔鏡手術を実施しており、呼吸機能を温存する区域切除も胸腔鏡下で実施しています。現在はロボット手術の導入に向けて積極的に取り組んでいます。一方で、他院で切除不能と診断された局所進行肺癌に対しては、術前化学放射線治療を実施後に手術で完全切除を達成しています。

整形外科

診療科長
川島寛之

診療科長からのメッセージ

整形外科では、脊椎・脊髄疾患、骨・軟部腫瘍、関節疾患、リウマチ、外傷（骨折、スポーツ外傷）、骨粗鬆症の診療を担当しています。日々の日常生活や移動・歩行を痛みなく、円滑に行うことができるように、最小侵襲手術、正確で安全なナビゲーション手術、微小な神経や血管縫合（マイクロサージェリー）、軟骨再生移植など最新の技術を駆使しています。

外来及び入院診療

外来診療：毎週火・木・金曜日の午前中に行っており、専門外来に分かれて対応しております。専門外来には骨粗鬆症、関節リウマチ、脊椎・脊髄、腫瘍、手の外科、小児整形、膝・肩・スポーツ、股関節、外傷などがあります。
入院診療：各専門分野とも整形外科専門医複数体制で手術症例を中心に行っております。手術日は毎週月・水曜日が基本になっております。また骨軟部腫瘍の化学療法も行っております。

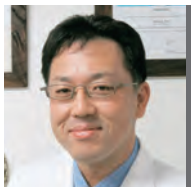
治療方針

病態の迅速かつ的確な把握に心がけ、患者個々の病状や、社会的背景、希望も考慮して保存的治療、手術的治療を行っております。保存的治療については適切な情報提供、リハビリ指導、装具療法、薬物選択などを心がけております。手術適応については各診療班で検討、また場合によっては複数の診療班で検討し、最終的な手術前計画を科全体の検討会で検討してから実際の手術を施行しております。

特色と主な実績

現在、当科では年間約1,000件の手術を施行しております。脊椎・脊髄分野のナビゲーションを用いた脊椎固定術、脊髄腫瘍やヘルニアに対する顕微鏡下手術、関節疾患に対する三次元術前計画やナビゲーションを用いた人工関節置換術（股関節、膝関節など）、関節鏡による手術（膝、肩、足など）、多くの外傷関連手術、骨軟部腫瘍関連手術など多くの分野において手術加療を施行しております。また膝関節の軟骨損傷に対する自家培養軟骨移植術の認定施設になっております。

形成・美容外科



診療科長
松田　健

診療科長からのメッセージ

形成外科は生まれつきの欠損・変形とともに、外傷・悪性腫瘍切除後の後天的な欠損・変形の再建を担当しています。それらの病気に対して高度な手術技術を駆使して対応しています。

外来及び入院診療

外来診療：火曜日午前・木曜日午前に２～６名の医師が診療に当たります。
入院診療：形成外科指導医でもある形成外科専門医６名と研修医が診療に当たります。
特殊外来：顔面神経麻痺外来、唇顎口蓋裂外来、頭頸部再建外来、頭蓋顔面骨外来、乳房再建外来、リンパ浮腫外来、皮膚腫瘍外来、下肢静脈瘤外来、眼瞼下垂外来、レーザー外来

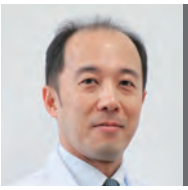
治療方針

私たちの形成外科は体の外見、すなわち整容を大事にしますが、機能も可能な限りの改善に努め、“整容と機能の両立”を目指した診療を行っています。そのため、複数の専門医によって診療を行えるよう常に心がけています。

特色と主な実績

形成外科専門医に加え、頭蓋顎顔面外科、小児形成外科、皮膚腫瘍外科、熱傷、手外科、創傷外科、レーザーの各専門医が在籍し、年間400件以上の手術を行っております。形成外科単独の診療はもちろん、耳鼻咽喉科、外科、整形外科、救命救急科、脳神経外科、眼科、口腔外科、泌尿器科、皮膚科等、多くの診療科との共同診療・再建手術を行っております。

小児外科



診療科長
木下義晶

診療科長からのメッセージ

小児外科は、成人外科疾患と異なり先天性の原因で発生する病気を扱っています。
一般の方にはなじみがない場合が多く、いろいろ悩まれる前に一度当科を受診戴ければと思います。専門的知識と技術で対応させて戴きます。大きな未来を背負っているこども達の役に立ちたいと考えて頑張っております。

外来及び入院診療

外来診療：主な外来日（新患・再来）は月曜日と水曜日です。急患は火曜日、木曜日、金曜日も随時受け付けております。
特殊診療：慢性便秘外来、胃食道逆流症外来、磁気刺激治療などを行っています。
入院診療：日本小児外科学会指導医・専門医を含めた計６名のスタッフで24時間体制で診療にあたっています。

治療方針

当科は小児期発症の外科的疾患を診療する分野です。小児とは一般的に新生児から15歳までを指す言葉として定義されることが普通ですが、小児期発症の疾患で一度診察された方は、必要があれば成人になってもずっとフォローし、健やかな成長と社会活動を支援しています。

特色と主な実績

以下の様な特色を生かした小児外科医療を行っています。
・小児固形悪性腫瘍に対する高度な集学的治療（Niigata Tumor Board）
・小児の稀少泌尿生殖器疾患に対する医療チーム
・小児鏡視下手術（胸腔鏡手術、腹腔鏡手術、単孔式手術など）
・臍、腋窩皺を利用した低侵襲手術
・漢方治療を取り入れた小児外科医療
・高頻度仙骨磁気刺激を用いた神経調節

脳神経外科

診療科長
藤井幸彦

診療科長からのメッセージ

新潟大学医歯学総合病院脳神経外科は、日本で最も長い伝統と最先端技術に裏打ちされた高度の診療を行っています。また患者さんの一人ひとりを安全に確実に治療させて頂き、『ここで治療してよかった』と思って頂けるように心掛けております。

外来及び入院診療

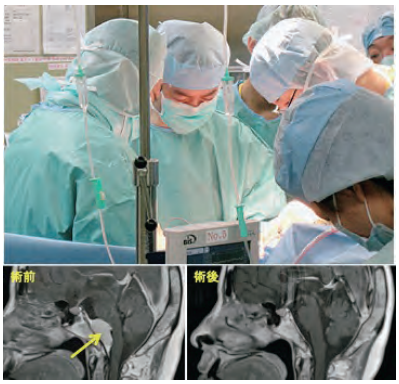
外来受診に当たって、新患は月、水、金曜日に受け付けていますが、当科は特殊外来を特徴としており、前医からの紹介状やCT・MRIなどの画像情報があると診察が円滑に進みます。入院後は主治医がチーム体制で診療に当たりますが、何よりも患者さんを第一に考え、安全・確実に治療を行うことを最優先にしております。毎週月曜日、16時より科長の藤井幸彦教授を中心に総回診を行なっております。

治療方針

当科では神経膠腫、髄膜腫、聴神経腫瘍、下垂体腫瘍などの各種脳腫瘍、脳動脈瘤、脳動静脈奇形、脳卒中などの脳血管障害、顔面けいれん、三叉神経痛、難治性てんかんなどの機能的脳神経外科疾患、先天性水頭症、先天奇形などの小児神経外科疾患、脊髄・脊椎疾患等、脳神経外科疾患全般にわたって、それぞれの分野のエキスパートが最適な治療を提供しています。

特色と主な実績

年間手術件数は、脳神経外科手術が約300件、血管内手術が約100件と、国内でも有数の手術件数を有しています。術中の脳脊髄神経機能のモニタリングやナビゲーションシステム、術中CT撮影などを積極的に導入し、根治性と機能温存、安全性の向上の両立を図っています。脳血管内治療は、複数の指導医のもと関連病院と連係し、国内でもトップクラスの治療実績を誇っています。神経内視鏡手術をいち早く導入し、より低侵襲な脳神経外科手術を行っています。



皮膚科

診療科長
阿部理一郎

診療科長からのメッセージ

皮膚科では、一般的な皮膚疾患を正しく診断・治療することはもとより、最高レベルの医療を患者さんに提供できる診療体制を目指しています。特に新潟県内の他の医療機関で対応が困難な重症疾患や希少疾患の患者さんに対しても、多数の経験豊富なスタッフが診療を行っております。

外来及び入院診療

外来診療：初診の患者さんの診察は、月曜日～木曜日に行っております。専門外来として、薬疹・リンパ腫外来、遺伝性皮膚疾患外来、腫瘍外来、皮膚膠原病外来、乾癬外来、アレルギー外来、アトピー性皮膚炎外来を開設しており、各分野の専門医が診療を担当します。

入院診療：皮膚科専門医を中心とした病棟診療チームが、入院治療が必要なすべての皮膚疾患の患者さんを受け入れております。緊急入院にも随時対応しております。

治療方針

詳細な診察と病理検査を含めた各種検査による正確な診断に基づいて治療を行います。診断や治療方針につきましては、診療科長を中心とした多数の皮膚科専門医も参加する科内の検討会で徹底的に検討した上で決定しております。入院診療では週１回の診療科長による総回診や毎日のチーム回診により、患者さんの最新の病状を複数の医師が把握することで、確実で漏れのない治療を行っております。

特色と主な実績

新潟県内の皮膚科では最多の病床を有しており、皮膚科専門医の在籍数も最多です。ほぼすべての皮膚疾患に対応が可能で、専門外来が豊富であり、常に最新の診療を提供しております。特に薬疹の分野では、重症薬疹発症機序の解明を目指し臨床研究にも力を入れており、国内でも有数の診療拠点となっております。また、様々な皮膚疾患での臨床試験（治験）にも積極的に取り組んでおります。

泌尿器科

診療科長
冨田善彦

診療科長からのメッセージ

同じ病気でも、患者さんごとに、病気の程度や性質は皆異なり、最適、最良の治療も異なります。新大病院泌尿器科では、主に泌尿器科癌、腎移植、小児疾患について高度な診断技術を駆使し患者さんの病態を的確に把握し、標準治療の他、様々な新規治から、患者さんご自身、ご家族とご相談の上、最適治療を選んでいます。

外来及び入院診療

外来では水曜日を除く午前に第１診察室から患者さん毎に診察室を固定し、再来新患の火、木、金曜は５-10名、新患中心の月は３名の医師が診療に当たります。腫瘍、移植、小児などの専門外来があります。入院診療は、３チーム制によるチーム制を採用しており、各チームは５-６名の医師からなり、腫瘍チーム、移植チーム、小児チームに分かれて、それぞれ高い専門性を持った診断、治療（手術、薬物治療）を行っています。

治療方針

それぞれの患者さんの病態の的確な把握、迅速な診断、治療を心がけています。術前・術後検討に加えて、治療難渋症例については活発な議論を行っており、最新知見を紹介討議、個々の手術症例検討、また、他の医療従事者や他科医師との合同カンファレンスなども定期的に行い、患者さんを中心に考えた最良、最適な治療を行うことが心モットーとしております。

特色と主な実績

当科では日本初の腎移植術、世界初の腹腔鏡副腎摘除術を行いました。県内唯一の腎移植施行病院であり、通算500例超を行いました。ロボット支援下前立腺摘除術は県内最多の手術数、また唯一の小径腎癌のロボット支援下手術施行病院です。また、通常の癌薬物療法の他、常時10件を超える開発治験（多くは国際共同治験）を実施しており、国内有数の実績です。小児手術では県内唯一の尿道奇形、外陰部異常に対する形成術施行施設です。

眼科

診療科長
福地健郎

診療科長からのメッセージ

眼を守ること、それは生涯にわたって生活のクオリティーを守ることに直結し、高齢化社会にあって眼科医療の需要はさらに高まっています。当科は新潟県の眼科に関する中核病院、唯一の基幹研修施設で、緑内障をはじめとするあらゆる眼科疾患に対して県内外からの患者様のご紹介に対応が可能な診療体制を整えています。

外来及び入院診療

外来診療：月～木曜日午前・午後に各専門外来および新患担当医が診療にあたっています。眼瞼下垂をはじめとする外眼部手術や、加齢黄斑変性症に対する硝子体注射などは日帰り治療も行っています。
入院診療：手術が必要な患者さんを中心に、それぞれの専門分野を担当する眼科専門医および研修医が診察・治療を行っています。治療の標準化によって入院期間を短縮し早期に社会復帰できるよう努めています。

治療方針

光干渉断層計（OCT）をはじめとする最新の診断機器を使って正確な診断を行うことを心がけています。重症疾患も安全に治療できるよう手術機器（白内障、硝子体、顕微鏡）も高機能なものを導入して治療にあたっています。また、複雑な病気に対しては幾つかの専門分野が連携して最高の診療が提供できるよう心掛けています。

特色と主な実績

緑内障診療は古くから当科の看板であり、手術件数や難しい症例の治療など関しては全国有数の施設となっています。また、角膜移植手術や目にかかわる形成手術など、一般的な眼科施設では対応できない治療にも積極的に対応しています。最新の機器を用いた先進的な医療を行うだけでなく、蓄積された診療データの解析によって診療の精度を上げ、患者さんが安心して治療を受けられるための研究も行っています。

耳鼻咽喉・頭頸部外科

診療科長
堀井　新

診療科長からのメッセージ

耳鼻咽喉・頭頸部外科は新潟県最後のとりでとして、耳、鼻だけでなく、のど、口の中、頸部のすべての病気の治療を行っています。舌やのどにできる癌に対しても手術をふくむ専門的で高度な治療を行っています。聞こえ、味、におい、といった生活の質を左右する感覚の障害に対する治療も行っています。

外来及び入院診療

外来診療：初診の患者さんは、火曜、木曜、金曜の午前に各疾患の専門医４-５名で担当します。癌の患者さんに対する化学療法の一部も外来通院で行っています。
入院診療：日本耳鼻咽喉科専門医14名（うち指導医10名）と研修医が複数主治医制で診療に当たります。できるだけ入院期間を短くして、患者さんの負担が少ない診療を行っています。

治療方針

難聴めまい、鼻咽喉頭、頭頸部腫瘍の３つのグループに分かれて診療を行っています。初診より専門分野の医師が担当し、病態の説明、必要な検査について説明し、検査結果に基づいて治療方針の提案を行っております。どの診療グループも世界標準の診療を原則とし、治療方針の決定にあたっては、複数の医師で検討を行い、患者さんに治療方針を提示し、患者さご本人、ご家族と相談の上、最終決定をしています。

特色と主な実績

難聴めまいグループでは、難治性めまいの診断と治療法の開発を行う一方、鼓室形成術数も年間100件以上と全国有数です。鼻咽喉頭グループでは、指定難病である好酸球性副鼻腔炎の手術治療や嚥下改善手術を行っています。頭頸部腫瘍グループでは、頭頸部癌を扱う県内５施設の中心として、再建手術、頭蓋底手術を含む高難度手術を行いながら、化学放射線療法のエビデンス構築にも取り組んでいます。

産科婦人科

診療科長
榎本隆之

診療科長からのメッセージ

産科婦人科では、婦人科悪性/良性疾患、周産期、不妊症、不育症、女性医学といった、幅広い年代の女性の疾患・病態に対する診療を、関連各施設と連携をとりながら行っています。また、基礎研究などを通じて、新しい産科婦人科治療の開発を行っています。婦人科がんに対する妊孕性温存手術を行っています。

外来及び入院診療

外来診療：毎日８～12名の医師が診療に当たります。新患、婦人科、産科、産科エコー、産科遺伝カウンセリング、不妊・内分泌、不育症、女性ヘルスケアといった各種外来を開設しています。
入院診療：産科婦人科専門医30名と研修医が診療に当たります。総合周産期母子医療センターでは、新生児集中治療室（NICU）９床、新生児後方病室（GCU）12床、および母体・胎児集中治療管理室（MFICU）６床を整備しています。

治療方針

婦人科悪性疾患では標準治療に加えて、治験・臨床試験などの先進治療も行っています。良性疾患では身体の負担の少ない腹腔鏡手術を積極的に行っています。
産科は総合周産期母子医療センターを有しています。合併症や胎児疾患など、厳密な管理が必要な妊婦様も診療しています。
生殖部門では、人工授精、体外受精・胚移植などの生殖補助医療を行っています。流死産をくり返す不育症患者様の原因検索および治療を行っています。

特色と主な実績

婦人科部門：妊娠中の子宮頸癌患者様に対して、妊娠を継続しながら癌を根治する広汎子宮頸部摘出術を行っています。良性疾患に対しては痛みが少なく創も小さい腹腔鏡手術を行っています。
産科部門：先天性心疾患などの胎児異常を検査するエコー外来、「母体血による胎児染色体検査（NIPT）」に対する遺伝カウンセリングを行っています。
生殖部門：がん生殖外来を開設しており、若年がん発症患者様の妊孕性温存に力を入れています。

放射線治療科

講師
海津元樹

診療科からのメッセージ

放射線治療は手術、化学療法とともにがん治療の３本柱のひとつであり、がん治療の中で重要な役割を果たします。体の負担が少なく高い根治性を目指せる治療法であり、また、根治を望めない患者さんにも症状を和らげる緩和治療として有効です。当科では高精度治療に積極的に取り組み、地域のがん医療に貢献します。

外来及び入院診療

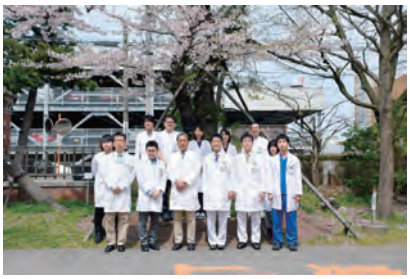
外来診療：月火木金曜日に新規の患者さんを受け付けております。
完全予約制で、主治医の先生からの紹介が必須です。
入院診療：主に前立腺がん・食道がん・肝臓がん・膵臓がん・肺がん・がん緩和治療の患者さんにおける放射線治療中の入院診療を行っています。
特殊治療：甲状腺がん・バセドウ病に対する放射性同位元素内用療法や前立腺癌に対する高線量率組織内照射など、一般病院では困難な治療も実施しています。

治療方針

がん診療に関わる他の診療科と連携・協力しつつ、集学的治療の一環として適切な放射線治療を行ってまいります。放射線治療の方針は常に検討会で複数の医師により確認され決定されます。また、がん診療専門の院内検討会であるキャンサーボードを通じて、他の診療科のがん患者さんについても適切な治療方針を示してまいります。

特色と主な実績

当院には高機能の放射線治療装置が導入されており、ほぼ全身の領域に渡って、定位放射線照射（ピンポイント照射）、強度変調放射線治療（IMRT）などの高精度放射線治療が積極的に出来る体制を、放射線治療科医師、医学物理士、放射線技師、看護師と共同で維持しております。前立腺癌や子宮頸癌に関しては高線量率組織内照射装置を用いた小線源治療を行える体制を整えて病態に応じた治療選択肢の幅を広げております。



放射線診断科

診療科長
石川浩志

診療科長からのメッセージ

当科では、CTやMRIの形態診断、核医学における腫瘍や正常構造の機能を元に診断する方法の他、カテーテルを用いて主に血管内から病変近傍までに近づき診断・治療を行うIVR（Interventional radiology）を守備範囲とし、診断から治療の幅広い領域を各診療科と協力しながら行っております。

外来及び入院診療

外来診療：病院内・外からの主にIVRを目的とした患者様の紹介受け入れを新患対応として行っております。
入院診療：IVRでの入院を当科で担当できる体制を整えております。

治療方針

病院内の各診療科から依頼を受けて、画像診断検査（一般Ｘ線検査、超音波、CT、MRI、血管造影及び核医学検査）を行い、診断報告書を作成しています。また体に負担の少ない低侵襲的治療（IVR）（塞栓術、血管拡張術、ステント治療、動注化学療法、CTガイド下生検やドレナージなど）を行っています。

特色と主な実績

画像診断では、CTやMRIやPET-CTなどの機器を利用して、心臓や大血管、中枢神経、肺、肝や膵などの腹部臓器、子宮卵巣や前立腺などの骨盤臓器、骨軟部領域などについて画像診断を行っています。IVRでは、動脈瘤や出血、動静脈などに対する塞栓術、動脈病変に対する血管拡張術やステント留置術、悪性腫瘍（癌）に対する動注化学療法、CTガイド下生検などを行っています。

麻酔科

診療科長
馬場　洋

診療科長からのメッセージ

麻酔科医の使命は、周術期の全身管理を行い、病気や手術侵襲から皆様を守ることです。様々なモニタリング機器や手技を駆使して、安全かつ不快感の少ない麻酔管理を心がけています。また麻酔薬や鎮痛薬の作用メカニズム、慢性痛の発生と治療に関する基礎研究を行っています。基幹施設として新潟県の医療に貢献して参ります。

外来及び入院診療

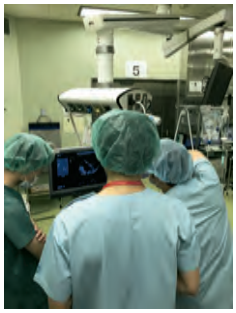
外来診療：術前外来（月～金）では、手術を予定された方々の術前診察を行い、それぞれの病状に合わせた麻酔方法や追加で行うべき県さを提案しています。ペインクリニック外来（月、水、金）では、難治性疼痛でお困りの方々を毎日３名前後の医師が診察しています。
入院診療：ペインクリニック専門医３名が治療を担当します。
特殊診療：手掌多汗症に対する胸腔鏡下交感神経幹焼灼術などを行っています。

治療方針

新潟県内の手術需要は高い状態が続き、待機患者さんにはご迷惑をおかけしております。その方々が少しでも早く手術を受けることができるように、円滑な手術室運営に努めてまいります。また術後の痛みや不快感を軽くすることによって、入院期間を短縮できるように心掛けています。ペインクリニックでは、外来での治療が中心になりますが、必要に応じて短期間の入院加療を行います。

特色と主な実績

2019年度の麻酔科管理症例数は5,122例であり、その内訳は新生児手術や心臓外科手術から、各種がんに対する手術、腎移植手術、高齢者の骨接合術まで、非常に多岐にわたります。麻酔科医は各自の専門性を生かしつつ、オールラウンドに活躍しています。ペインクリニックでは手掌多汗症手術や、ＣＴガイド下神経ブロックを定期的に行うなど、最新の治療を取り入れています。



救急科

診療科長
本多忠幸

診療科長からのメッセージ

救急科は、疾病、外傷、熱傷、中毒、熱中症や低体温症等の急性疾患を個々の診療科に関係なく診療を行い、特に重症な場合には、救命救急処置や集中治療を行うことを専門にしています。また、疾病や外傷の種類や治療の経過に応じて適切な診療科と連携して診療に当たっています。

外来及び入院診療

外来診療：一般外来での診療は行っていません。病院の救急外来で、主に救急車で搬送される患者さんに365日・24時間体制で対応しています。重症患者さんの診療を優先する為、軽症の患者さんには待って頂く場合がありますが、ご協力をお願いします。
入院診療：重症と判断された場合は病院中央診療棟４階の高次救命災害治療（高度救命救急）センター、重症でない場合は一般病棟に入院して診療を行っています。

治療方針

重症度と緊急度から治療優先度を決定して、診療を行います。救急外来と高次救命災害治療センターは365日・24時間体制で診療に当たっています。高次救命災害治療センターでは、集中治療部（ICU）の医師と共に、救急科専門医、集中治療専門医、様々な診療科の専門医が中心となり、チームで診療を行っています。緊急に入院されることから、患者さんやご家族への充分な説明に心がけています。

特色と主な実績

重症な救急疾患では、早期に診療を始めれば予後の改善が期待出来ます。一方、新潟県では119番通報から病院収容まで平均40分以上を要しています。この為、早期の救急現場への医療投入を目的に、救急科が主体となって、2012年10月から新潟県ドクターヘリを運行しています。2019年度のドクターヘリの出動件数は829件となっています。

リハビリテーション科

診療科長
川島寛之

診療科長からのメッセージ

当科にはリハビリテーション学会認定の指導医が１名、専門医が２名在籍しており、科学的根拠に基づいた治療を患者の十分な理解と同意をいただいたうえで行うように努めています。
また当院の各診療科とも連携し、専門性を生かした医療を行うとともに、地域医療機関との連携も積極的に行っています。

外来及び入院診療

当科では入院診療は行っていないものの、他の診療科からのリハ依頼の復券をもらってからのリハ処方箋の作成、依頼科主治医、医療ソーシャルワーカー、病棟看護師、療法士を交えてのリハカンファレンスの開催等を行っています。また、特徴的な外来診療では厚生労働省政策研究の慢性疼痛診療の協力機関として、１週間に５－10名程度の慢性疼痛患者の外来診療を行っています。

治療方針

当科は県内で唯一の大学病院のリハビリ診療機関で、かつ特定機能病院であることから、新潟市内に限らず、新潟県全体の地域医療、各種疾患、癌、心疾患、呼吸器疾患および難病に対するリハ、介護予防・生活支援などを念頭に入れて活動しています。メディカルスタッフを含めたリハ関連職種の医療人の育成、さらには新潟県全体の医療レベルの向上を図るため、新潟リハ研究会、勉強会、研修会の開催等も行っています。

特色と主な実績

当科では慢性疼痛患者に対して、2014年から認知行動療法に基づく「いきいきリハビリノート」（図）を用いた運動促進法を行っています。本法は日本運動器疼痛学会（http://www.jamp.so/）の活動の一環で、2018年に発刊された慢性疼痛治療ガイドラインの「認知行動療法、患者教育をリハビリテーションに導入し、治療に応用することは強く推奨される」に合わせたアプローチです。慢性疼痛患者の年間の延べ診療回数は250件です。

病理診断科

診療科長
味岡洋一

診療科長からのメッセージ

患者さんには病理診断はなじみがないと思いますが、病理診断とは患者さんから採取された細胞や組織を顕微鏡で観察し、どのような病気なのか、どれくらい病気の進展があるのか、などを診断する医療行為です。

外来及び入院診療

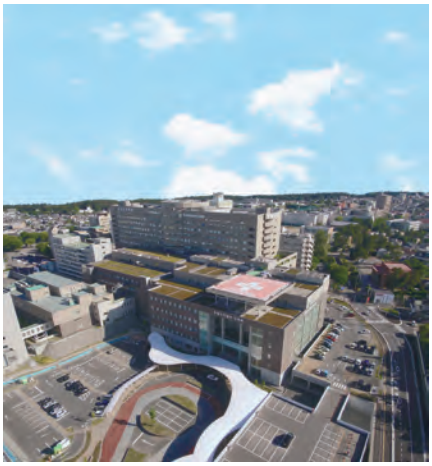
病理診断科外来では、病理専門医が患者さんに病理標本を示しながら、病理診断の内容を説明し、患者さんからのご質問にお答えします。
現在治療中の疾患について説明を受けた上で、さらに詳しい病理についての情報が必要な場合、あるいは実際に自分の疾患の細胞・組織を見てみたいと希望される患者さんを対象とします。原則予約制です。

治療方針

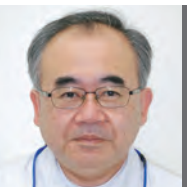
病理診断により治療方針が変わることもあるため、病態の正確な把握やそれに基づく迅速な対応が必要となります。例えば胃カメラで採取された組織が、胃炎なのか、潰瘍なのか、あるいは癌なのかを、標本を顕微鏡で観察し、診断しています。また、癌の手術で摘出された標本では、癌のタイプや進行度の評価などを行います。これらの標本の説明を丁寧におこないます。

特色と主な実績

病理診断により治療方針が変わることもあるため、病態の正確な把握、迅速な診断を心がけています。常に複数の病理専門医で診断の相互チェックを行い、診断精度を高めています。年間約8,000件の組織診断、約6,000件の細胞診、約800件の手術中迅速診断、約30例の病理解剖を行っています。一般的な疾患だけではなく、希少な疾患も診断する機会が多く、臨床医との合同検討会も行っています。



口腔再建外科



診療室長
小林正治

診療科長からのメッセージ

口腔再建外科では、口腔がんや顎変形症、口唇口蓋裂、外傷、睡眠呼吸障害など顎顔面領域の多様な疾患を対象として、関連各科と連携を取りながら診断・治療を行っています。また、先端医療の研究開発を進めるとともに、地域住民や医師・歯科医師から求められる質の高い医療を提供していきたいと考えています。

外来及び入院診療

外来診療：初めての診察は予約を取っていただくとスムーズに診療が進みます。予約のない方でも月曜から金曜まで新患、あるいは急患担当が診察を行います。口腔外科指導医・専門医・認定医を中心に外来での診断、治療を行っています。
入院診療：週に２回は中央手術室で手術を行います。治療方針は診療科全体で検討を行い、一人の患者さんの治療に担当チームを決めて治療に当たります。

治療方針

当科は多くの患者さんが地域医療機関の紹介により来院されることから、病診連携をとりながら口腔外科指導医・専門医を中心として高度な医療を丁寧な説明のもとに提供することを常に心がけています。安心で安全な医療を提供するため、十分な説明を行い、納得して治療をうけていただけるように努めています。また疾患を総合的に診断・治療するため他の診療科とも協力して診療を行います。

特色と主な実績

顎変形症、口腔粘膜疾患･口腔がん・睡眠時無呼吸症候群などの治療に力を入れています。顎変形症は矯正医と連携して外科的矯正治療を行っており、手術件数は本邦有数です。口腔がんは日本がん治療認定医機構がん治療認定医（歯科口腔外科）を中心に各診療科と連携し治療を行っています。睡眠時無呼吸症候群に対して睡眠時の呼吸状態や顎顔面の形の分析結果をもとに口腔内の装具やあごの位置を修正する外科的な治療も行っています。

顎顔面口腔外科

診療室長
高木律男

診療科長からのメッセージ

当科は（社）日本口腔外科学会の認定指導施設として、３名の指導医のもとで専門医および認定医が、診断・治療・教育にあたっています。また、より専門性の高い治療を行うために、口蓋裂・変形症、口腔腫瘍・再生、顎関節・外傷、有病者・感染症の診療研究班を組織し、治療成績の向上に努めています。

外来及び入院診療

外来診療：火曜と金曜、偶数週月曜の新患を担当。他の曜日でも当科宛の紹介状で随時受付可（午前８時30分～午前11時30分、午後１時～２時30分）。
入院診療：全身麻酔下での手術（あらゆる口腔外科疾患）および入院管理下での加療（炎症、骨折など）が必要な症例に対し、口腔外科学会の専門医を中心に助教、医員、研修歯科医が対応。
特殊治療：Hotz床併用二段階口蓋形成法（図）、培養骨膜併用顎骨再生など。

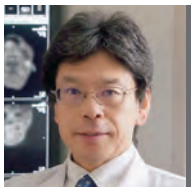
治療方針

十分な病歴聴取と現症（所見）の把握から必要最小限の検査を依頼し、画像・病理分野との協力のもと総合的な病態診断を重視しています。治療にあたっては患者さんの主訴をできるだけ早く解決するために、年齢や全身状態・生活環境などに配慮した治療方針立案と十分な情報提供による患者さんおよびご親族のご理解のもと、各疾患に精通した口腔外科専門医を中心に口腔領域特有の機能的、審美的な回復をはかります。

特色と主な実績

本院の口唇裂・口蓋裂診療チームとして、1983年以後Hotz床併用二段階口蓋形成法を適用し、長期にわたる良好な経過を報告しています。最近は、患者さんご本人から採取した顎骨の骨膜を用い、本院のバイオクリーンルームで培養自家骨膜を作成し、歯槽骨・顎骨再生に応用し、質的、量的に良質な骨の再生医療を実用化しています。なお、HIV感染症の歯科医療体制整備、周術期等口腔機能管理など医療連携も実施しています。

歯科放射線科



診療室長
林　孝文

診療科長からのメッセージ

歯科放射線科では、歯・口腔や顎の画像診断（MRIやCT、超音波診断など）と、放射線治療患者さんの口腔管理の二本柱で診療を行っています。どちらも、高度で専門的な知識や技能が必要となり、放射線治療を含めた診療の全般に精通していなければなりません。確実な診断と適切な管理で最良のサービスを提供できるよう、スタッフは一丸となって日々研鑽を積んでいます。

外来及び入院診療

歯科放射線科は画像診断と口腔管理外来を２つの柱として診療に従事しています。

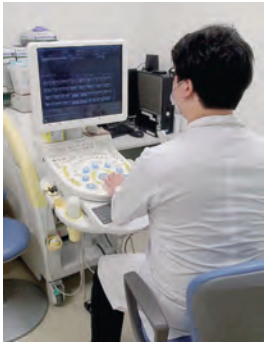
画像診断では歯科各診療科から診断依頼のあった単純X線画像、CT画像、MRI画像を診断し、撮影依頼のあった歯科用コーンビームCT検査、超音波断層撮影検査について検査を施行し、診断を行っています。口腔管理外来は医療連携口腔管理チームの一員として放射線治療・化学療法の術前・術中・術後における口腔内の管理を行っています。

治療方針

口腔内疾患や顎関節症、顎顔面頚部領域に広がる腫瘍・外傷・炎症など、歯科領域における幅広い疾患について、正確かつ依頼医にとって治療に役立つ情報を提供できるような診断を心がけるとともに、撮影範囲外に他の疾患がないかについても細心の注意を払っています。口腔管理外来については口腔管理とともに歯科医師としての技能を生かし、放射線治療に対しての口腔内有害事象の抑制につながるマウスピースの作成も行っています。

特色と主な実績

歯科領域では画像検査数は年々増加しており、これに対応するために豊富な経験を有する専門医が診断を行っています。昨年度の実績は総計3,905件（単純X線258件、CT1,877件、MRI214件、歯科用CBCT424件、超音波断層撮影1,132件）の画像診断を行っています。また、口腔管理外来について昨年度のべ2,935件の診療を行っており、医科歯科連携に貢献しています。



歯科麻酔科

診療室長
瀬尾憲司

診療科長からのメッセージ

歯科麻酔科では、顔や口の中に生じた痛みやしびれなどの不快な症状を高度な技術で診断し治療を行うペインクリニックを行っております。また、様々な医学的理由により歯科治療を受けにくい方には、苦痛や不安がなく歯科治療を受けれるように、全身管理を行いますので、不安な方はご相談ください。

外来及び入院診療

外来診療は新患受付と手術前の術前診察日を、水曜日と金曜日にしております。完全予約制ですので必要な方はあらかじめ連絡ください。また痛みなどの特殊な治療を受けたい場合には、火曜日または木曜日に受け付けておりますので、受診されるときにはこちらもあらかじめご連絡ください。

治療方針

痛みは様々な原因で発生しますが、外見的に腫れなどの明らかな病変がないことが多いものです。その原因はわかり難いことがありますが、それを突き止めるためには様々な検査を行います。治療には時間がかかることがありますが、痛みを感ずることがなくなることを目標として、日常生活に復帰できることを目指します。また恐怖感などで歯科治療を受けにくい方には、全身麻酔なども駆使して体と心を守ります。

特色と主な実績

あごの骨の中にある神経は傷ついてもレントゲンで判明が困難です。そこでMRIによる独自の方法で診断します。この方法は当科の他は日本国内でもわずかな施設でしか行われていません。これによって明確となった神経損傷とその病変に対して行う外科的治療は国内でも有数な治療経験を有しております。三叉神経損傷の診療ガイドライン作成の中心的メンバーとしての経緯から、総合的に判断して最も適切な治療方法を選択します。

小児歯科・障がい者歯科

診療室長
早﨑治明

診療科長からのメッセージ

小児歯科・障がい者歯科は、地域のお子さんや障がいを有する患者さんのお口にかかわる問題の診療、支援を行っております。お口の問題は、むし歯や歯周病だけでなく多岐にわたりますが、患者さんにとって最も必要で、かつ質の高い診療を行うよう心がけ、地域医療の向上の寄与に努めています。

外来及び入院診療

外来診療：月曜日から金曜日まで午前・午後ともに外来担当医と歯科衛生士で診療に当たります。
お子さんや障がいのある患者さんのお口にかかわること全般についての専門診療科です。歯科治療時のストレスが大きい場合、医科および歯科麻酔科等、院内専門診療科と密に連携をとりながら全身麻酔または静脈内鎮静法を併用するなど、安全で確実な歯科医療を提供しています。

治療方針

当診療科では、虫歯や歯周病のみならず、お口や歯のけが、歯の生え方、さらには食べる・話すなどのお口の機能についてなど、お口の健康に関わるさまざまな相談・治療を行っています。患者さんの治療方針は専門医指導医のもと、カンファレンスで検討され、他科専門診療科とも密に連携をとり、多くの選択肢の中から患者さんの状態に応じた最も適切な治療方針を提案し、患者さんと相談しながら診療を進めてまいります。

特色と主な実績

当診療科では、日本小児歯科学会および日本障害者歯科学会の専門医指導医・専門医・認定医・認定歯科衛生士が常駐し、患者さんに適切な環境を整え、高度な診療を行っています。第三次医療機関として、県内各地および県外からも地域での診療が困難な患者さんが多数紹介来院されています。障がいのある方や低年齢の患者さんの全身麻酔症例は年間60例あり、治療終了後は地域と連携していくことで地域医療の充実化を図っています。

矯正歯科

診療室長
齋藤　功

診療科長からのメッセージ

矯正歯科治療は子供さんが対象であると考えられてきました。しかし人口構造の変化に伴い成人患者さんの割合は30%を上回っています。成人はお口の中が複雑化しているため口腔外科、歯周病科など関連診療科と連携し適切な治療を提供しています。歯並び・かみ合わせや口元について気になる方は年齢を問わずご相談ください。

外来及び入院診療

外来診療：毎日午前・午後（午前は9時～12時、午後は13時～16時。但し、火曜午後は13時～18時30分、木曜午後は13時～14時30分）に診療を行っております。新患の患者様につきましても、平日午前（9時～11時30分）・午後（13時～15時30分）とも受診可能です。直近5年間の新規登録患者数は平均250名、延べ患者数は約12,200名となっています。

治療方針

当診療科では、歯並びの乱れやかみ合わせのずれの改善はもとよりそれぞれの患者さんにとって調和のとれた口元や顔貌の獲得に重点を置き治療を提供しています。矯正歯科治療によりむし歯や歯周疾患に罹りにくくなるだけではなく、発音、咀嚼、嚥下など機能面の改善が期待できます。治療するにあたっては、必要かつ十分な診察・検査を行い、科内検討会、教授診断により、それぞれの方にふさわしい治療方針の立案に努めています。

特色と主な実績

口唇裂・口蓋裂には口腔外科、形成外科、耳鼻科、言語治療室などと連携し出生時から成人に至るまで一貫した集学的治療を提供します。また、顎変形症に対しては、口腔外科と連携し顎の手術と歯列矯正を組み合わせた外科的矯正治療を行います。口唇裂・口蓋裂、顎変形症および厚生労働大臣が定める「6歯以上の先天性部分（性）無歯症」を含む59の疾患に対する矯正歯科治療には健康保険が適用され、約25%の方が該当しています。

予防歯科

診療室長
小川祐司

診療科長からのメッセージ

予防歯科では、むし歯や歯周病などになってからの治療（キュア）ではなく、ならないようにするケアを大切にしています。お口の健康を積極的に守るため、先進技術を用いた「プロフェッショナルケア」と、歯科医や歯科衛生士の指導に基づいたご自身での「セルフケア」の両立で、充実した予防歯科の実践を提供しています。

外来及び入院診療

外来診療：新来、再来ともに毎日午前・午後に担当の歯科医師が診療にあたります。
また特色ある専門外来として、口臭外来を併設し、口臭の治療にあたります。口臭外来の新来は、原則火曜・木曜の午前です。

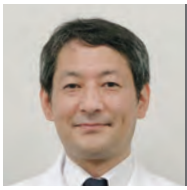
治療方針

定期健診としての「メインテナンス」を通じて、疾患の予防をはじめ治療部位の再発を防ぐことを目指します。患者さん一人一人の特性に応じた質の高いメインテナンスを行うために、「テイラーメイド型」の医療サービスを実践しています。

特色と主な実績

予防歯科は、糖尿病・生活習慣病教室や口蓋裂診療班にも参画し、疾患のリスクが高い患者さんへのお口の健康を提供しています。また、長期にわたりメインテナンスを受けられた患者さんは、80歳以上で20本の歯を維持されており、クオリティオブライフ（QOL）の向上に貢献しています。

歯周病科



診療室長
多部田康一

診療科長からのメッセージ

歯周病は国民病とも呼ばれるほど多くの人が罹患する疾患であり、成人が歯を失う主な原因です。当科は、歯周病の治療・予防についての専門診療科として、先端的研究を臨床にフォードバックしながら、専門的知識と技術が必要とされる安全・安心な歯周病治療を患者様に提供します。

外来及び入院診療

診療日・時間：月～金曜日、午前 9 時～午後 4 時、予約制。
但し、新患および急患は、診療時間中は随時対応します。
診療体制：担当医制となります。
日本歯周病学会が認定する歯周病指導医、専門医、認定医および認定衛生士が多数在籍しており、専門知識と技術を要する高度歯周病治療を実施する体制を整えております。

治療方針

患者様一人ひとりのお口の状況について、専門的知識に基づいた十分な検査と診断を行い、エビデンスに基づいた、高水準の歯周病治療を提供いたします。
また、治療により改善した状態を長期にわたり維持するためのメインテナンス治療を重要と考えて取り組みます。
昨今、口腔感染症である歯周病と様々な全身疾患との関連がますます注目されています。全身の健康増進に寄与するべく、口腔内感染のコントロールを行います。

特色と主な実績

日本歯周病学会が認定する歯周病指導医、専門医、認定医および認定衛生士が多数在籍しており、専門知識と技術を要する高度歯周病治療を実施する体制を整えております。
全国に先駆けた歯科領域における細胞治療として、自己の培養骨膜シートを用いた歯周組織再生法の研究開発を行ってきました。現在、この成果は自由診療において顎骨・歯槽骨の再生療法として提供されております。

歯周病にかかった口腔内

歯の診療科

診療室長
野杁由一郎

診療科長からのメッセージ

歯科治療の根幹をなす領域（歯を保存する部門）の治療を行っています。
治療のコンセプトは、歯を保存し、“Quolity of life（QOL）”に配慮した歯の機能を維持することです。
最先端・最新鋭の機器を駆使し、より正確で客観的な診断と治療を心がけて診療にあたっています。

外来及び入院診療

歯の診療科は「歯の保存治療」とされる３つの治療分野の中で、主に保存修復と歯内療法を専門とする診療科です。診療科員13名中、日本歯科保存学会：指導医３名、専門医２名、認定医６名、日本歯内療法学会：専門医１名が診療を行っています。特徴のある設備として歯科診療ユニット７台全てに、歯科用顕微鏡が配備されており、拡大された視野を術者に提供し診療の質の向上に寄与しています。

治療方針

当科の診療のスローガンは、“科学的根拠基づいた歯科診療（EBD）の実践を目指して”です。その一環として、当科が主体となり歯科臨床のエビデンスを構築するため、11件の倫理委員会承認の臨床研究（例：根面う蝕の病因の解明とう蝕・歯周病リスク診断法の開発、根尖性歯周炎における根尖病変の治癒促進を目的とした高周波根尖療法に関する臨床試験等）を実施中です。（含：第３次再生医療研究１件、医学・歯学連携研究２件）

特色と主な実績

歯の診療科の専門とする診療は、一般歯科診療所の通常歯科診療（むし歯の治療、歯の神経や根の治療、ホワイトニング等）と多くは重なっています。他方で、少数精鋭ながら、専門性と先端性の高い先進医療を充実し実践しています。その結果、地域の歯科診療所からの紹介患者数は2017年度で137名、2018年度は151名あり、地域歯科診療所と大学病院歯科（地域中核病院）との地域医療連携の一翼を担っています。

冠・ブリッジ診療科

診療室長
魚島勝美

診療科長からのメッセージ

当診療科は歯に冠を被せる治療を基本としていますが、私たちは単に個々の歯の治療だけではなく、お口の中全体を診て、少しでも多くの歯で長く咬むことができる状態を確保できることを目指しています。慎重な治療計画の立案と丁寧な説明を心がけていますので、何なりとお気軽にご相談ください。

外来及び入院診療

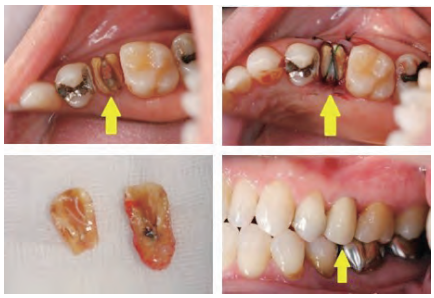
外来診療：毎日午前・午後に日本補綴歯科学会専門医を含む19名の歯科医師が診療にあたっています。
特殊診療：特色ある専門外来として、歯科金属アレルギー外来、歯根破折外来を開設し、診療を行っています。
その他にもインプラントや義歯による治療も行っています。

治療方針

冠・ブリッジ診療科では、歯の一部を失った場合に、冠やブリッジ等を入れる治療を行っています。歯がなくなった部分には、部分入れ歯や総入れ歯といった治療も行い、インプラントを用いた治療も行っています。また、金属アレルギー外来では、皮膚科と連携して歯科金属アレルギーに関する診断、治療も行っています。さらに、歯の根が割れてしまった場合には通常抜歯となりますが、そのような歯の再植保存も手がけています。

特色と主な実績

歯根破折外来では、10年以上前から、縦にひびが入るか、割れてしまった歯根を一度抜歯して、接着剤で元通りに修復し、再度元の位置に植え直す処置を行っています。これまでのところ、このように治療した歯は３年経過後に約８割、５年経過後に約７割使えています。もちろん、このような対応ができない場合もありますが、エックス線撮影等の検査によってその可能性はある程度判断できますので、是非ご相談ください。



義歯診療科

診療室長
小野高裕

診療科長からのメッセージ

最近、高齢期の健康維持、特にフレイル（虚弱）予防の観点から、食べる、しゃべると言ったお口の機能がますます重視されるようになりました。歯を失った方に、健康で楽しい生活を取り戻していただくために、義歯（入れ歯）はとても有効な人工臓器です。義歯診療科では、一人一人の患者さんに合ったよりよい義歯を提供します。

外来及び入院診療

外来診療：月曜日から金曜日まですべての日に再来を受け付けています。新来は冠・ブリッジ診療科と交代で隔日に行っています。
特色ある治療：通常の義歯以外に、腫瘍や外傷などで顎や舌の一部を失った方、脳卒中や神経疾患で舌の動きが悪くなった方が、食べやすく、しゃべりやすくなるための特殊な装置を作って、リハビリテーションをサポートします（顎顔面補綴外来）。

治療方針

当科の診療は、義歯などを用いて食べること・しゃべることをはじめとする、お口の「機能」を回復することに主眼を置いています。特に食べる機能（咀嚼、嚥下）を客観的に数値で評価するシステムを運用して、診断と治療効果の判定を行っています。
治療にあたっては、患者さんの意向をうかがいながら十分な診査を行った上で、お口の状態や必要な治療を丁寧にご説明し、患者さんに安心して治療を受けていただけるように努めています。

特色と主な実績

『顎顔面補綴外来』では、腫瘍などであごや舌の一部を失った方の機能を回復するため特殊な装置（顎義歯、舌接触補助床、軟口蓋挙上装置など）を製作し、咀嚼（かむ）、嚥下（のみこむ）、構音（話す）機能の総合的なリハビリテーションを行っています。平成31年度は30名の患者様に機能回復のための特殊な装置を製作しました。

口腔リハビリテーション科

診療室長
井上　誠

診療科長からのメッセージ

「口腔リハビリテーション科」では、「噛む」「飲み込む」などの問題を解決することで「食」を通した健康の維持・改善を図ります。脳卒中をはじめとする様々な疾患により「食べにくい」「飲み込みにくい」「むせる」「口が乾く」「味が分かりにくい」などの症状があれば、その原因を突き止めて、適切な治療を行います。

外来及び入院診療

摂食嚥下リハビリテーション外来では、月曜日から金曜日の午前・午後に担当歯科医師が診療にあたります。くちのかわき・味覚外来は完全予約制となっています。お電話で予約をお取りください。

治療方針

食べることが困難な症状をもった摂食嚥下障害に対しては、必要に応じて嚥下造影検査や嚥下内視鏡検査などを行い、訓練の実施、食形態の変更、食事指導などの治療を行っていきます。くちのかわきに対しては唾液検査、味覚障害に対しては味覚検査を行い、問題の原因を突き止めた上で治療を行います。

特色と主な実績

当院における摂食嚥下障害新患数は、外来・入院を合わせて年間400名を超えています。摂食嚥下障害やドライマウス、味覚障害の主な原因疾患は、脳血管疾患、内科系疾患、脳神経内科系疾患、頭頸部腫瘍など多岐にわたり、年齢層も幅が広いことから、それぞれの状態に応じたアプローチを行います。また、必要に応じて他の診療科との連携を行い、患者さんへのベストなサポートを提供しています。

検査部

臨床検査室の品質と技能に関する国際規格ISO15189認定のもとに、高度医療を担う大学病院の医療チームの一員として年間440万件の検査を実施しております。

体制と運営方針

診療科より依頼されるさまざまな検査のニーズに機敏に対応するため、検体検査部門・生体検査部門・生物検査部門の３部門を設置し、業務を分担しています。チーム医療として、院内感染対策チーム、栄養管理サポートチーム、糖尿病・生活習慣病教室および治験等の活動にも関わっています。特定機病院の責務として、医療安全に配慮し、品質の保証された結果報告を使命とし、ISO15189規格に準拠した臨床検査業務に努めます。

業務内容

検体検査部門は血液や尿などを対象に検査を実施する部門です。検査項目は多岐にわたり大量の検体を迅速に測定・報告するため、自動化と厳密な精度管理体制を構築しています。生体検査部門は心電図・呼吸機能・超音波検査などを実施する部門です。専門資格をもつ技師が対応します。生物検査部門は微生物検査や遺伝子検査を実施する部門です。感染管理部と連携し、迅速な遺伝子検査の実施により当院の高度医療を支えています。

手術部

高難度手術、ハイリスク手術、先進医療に対応し、患者さんへ安全で最良の手術医療を提供するとともに、効率的な手術運営で年間8,800件を超える手術を行っています。

体制と運営方針

当手術部は、中央診療棟２階に５つの手術室、メインの３階に10の手術室とクリーンサプライを配置した２階建て全15室の構造となっており、年間約8,800件超の手術に対応しています。周術期認定看護師を含む看護師が57名、臨床工学士は５名以上、薬剤師１名、放射線技師１名が常駐しています。オペラマスターを導入し、手術室稼働率、手術部職員の勤務状況などを多角的に検討し、効率化を図り経営改善を行っています。

業務内容

ロボット支援手術（ダ・ヴィンチ）、４K/３D内視鏡手術など最新の医療機器を使用した手術に加え、待望のハイブリッド手術室が完成し、2020年４月から稼働を開始しております。また、当院は高次救命救急センターを有しており、地域医療の最後の砦として、ハイリスク症例や高難度手術に対応しています。変わりゆく手術医療に対応できるよう周術期チームとして日々アップデートを重ね、安全安心な周術期医療の遂行を目指します。

放射線部

放射線部では、画像をもとにした診断や治療を全身に渡って行い診療内容も多岐にわたっています。最新鋭の装置を用いてチームで診療を行っています。

体制と運営方針

放射線部長、副部長のもと、放射線診断医、放射線治療医、診療放射線技師、看護師、臨床工学技士、医学物理士、事務職員が強力なチームを組み診療に当たっています。病院の目標である、高度で先進的な医療の実践の一翼を担い診療科に貢献をしています。各診療科とは、キャンサーボードを始めとする会議を多数行うことで連携を密にしており、また放射線部内では職種を超えた会議を定期的に持ちシームレスに連携が取れる体制を構築しています。

業務内容

放射線部の業務は大きく画像診断と放射線治療に分かれます。画像診断では最新鋭の装置を使用した撮影や画像誘導下でカテーテルを使った手術、ラジオアイソトープを用いた核医学があり、得た画像に対して画像診断レポートが作成され主治医に報告が行われています。放射線治療では、高精度な強度変調放射線治療や定位放射線治療などが行われて成績を上げています。また子宮頸癌や前立腺癌に対する高線量率や甲状腺癌に対するヨード内服療法など特殊な治療も行われています。

高次救命災害治療センター

2009年10月から日本海側で最初の高度救命救急センターとして稼働を開始しました。当救命救急センターは新潟県における救急医療の「最後の砦」の役割を担っています。

体制と運営方針

病院中央診療棟４階に、集中治療病床４床とハイケア病床16床で稼働、365日・24時間体制で重症な救急患者に対応しています。救急科専門医や集中治療専門医を主体に、様々な診療科の専門医、更に薬剤師、理学療法士が加わり、チームとなって集学的治療を展開しています。少なくとも医師１名が常駐、患者１名に対して看護師２～４名以上の体制で診療に当たっています。

業務内容

主に、救急車で来院される方、ドクターヘリ等で搬送される方に対応しています。様々な生体情報モニターと呼吸や循環の臓器補助装置を用いて、急変を速やかに発見、適切に対応することにより、早期の病態の回復を目指しています。

高密度無菌治療部

本院での同種造血細胞移植治療（骨髄移植、末梢血幹細胞移植または臍帯血移植）を管理しています。

体制と運営方針

白血病や再生不良性貧血などの難治性造血器疾患や小児悪性腫瘍の根治をめざしています。骨髄非破壊的移植、HLA半合致移植などを含め、本邦で行われているすべての移植法に対応しており新潟県の造血細胞移植センターとしての機能を果たしています。
専門知識を持つ医師（血液内科、小児科）、歯科医師、看護師、薬剤師、臨床検査技師、理学療法士、栄養士が協力して造血細胞移植療法に取り組んでいます。

業務内容

移植技術の進歩と多様化に対応し、多職種による連携を密にして患者さん一人一人に適した移植治療を提供すべく努力を重ねています。
外来では認定看護師による造血幹細胞移植後療養外来を開設し、移植を受けた患者さんの長期的な生活と社会復帰をサポートしています。日本骨髄バンクを介した骨髄採取、末梢血幹細胞採取、ドナーリンパ球採取、ドナーコーディネート協力も行っています。

物流センター

院内全体で使用する医療材料、鋼製小物などの医療器材、医療機器、ベッド、リネンなどを中央管理し、診療に関わる物品全般の供給を担当する部門です。

体制と運営方針

物流センターは医療材料、滅菌、ME、リネン、ベッド洗浄の５部門で構成されます。医療材料部門は約1,000品目を有する中央倉庫を運営しており、物品管理の効率化と適正な在庫量維持により病院運営に貢献しています。また滅菌部門では一般医療器材のほか全手術器材と歯科外来器材の洗浄、セット、滅菌を一元管理しています。物流センターは安心、安全、確実な器材の供給を使命として、感染対策上重要な役割を担っています。

業務内容

医療材料部門では点滴作業台の交換や、定数管理品の補充、採血セット、蘇生バッグセットの供給など、日々の業務に使用する消耗品の払出しを行います。滅菌部門では回収された器材を最新型の全自動洗浄装置と３種類の滅菌装置を用いて適切に処理します。滅菌の質保証のための工程管理、ICタグを用いた手術履歴管理など安全にも十分配慮しています。物流センターは日常の診療を支える縁の下の力持ちとして毎日業務しています。

総合リハビリテーションセンター

総合リハビリテーションセンターは、患者の尊厳を重んじ、生活の質の向上と家庭・社会への復帰を目指し、質の高い医療を心を込めて提供します。

体制と運営方針

リハビリテーション科医師、呼吸器・感染症内科医師、口腔リハビリテーション科医師、看護師、理学療法士、作業療法士、言語聴覚士、歯科衛生士等、多職種がいます。リハビリテーション科医師、呼吸器・感染症内科医師、理学療法士、作業療法士、言語聴覚士によって運動器、脳血管、心大血管、呼吸などの疾患別リハを行い、口腔リハビリテーション科医師、言語聴覚士、歯科衛生士により摂食機能療法を行っています。

業務内容

患者さんの身体状況、障害状況、社会的背景をそれぞれの職種が評価をし、それをもとにカンファレンスを開催し、患者さん個々に応じた目標設定をし、各職種が目標に向かったリハビリを実施していきます。チーム内で進捗状況を確認し、状態の変化に合わせ、必要時には目標を見直しながら実施しています。急性期の患者が多いため、看護師の医学管理は必須で、年に１度は患者の急変に対応出来るよう、全員で訓練を行っています。

総合周産期母子医療センター

母体胎児集中治療室（MFICU６床）新生児集中治療室（NICU９床、GCU12床）を備え、年間約500件の分娩、約200件の新生児集中管理を行っています。

体制と運営方針

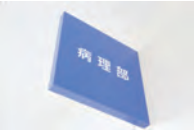
周産期専門医を中心とした産婦人科及び小児科医師、助産師、看護師、薬剤師、胚培養士、臨床心理士、入院児支援コーディネーターなどが連携し、各種合併症妊産婦、胎児を対象とした産科部門、集中治療を要する児を対象とした新生児部門を運営しています。“安心安全なお産”、赤ちゃんと家族のための“family centered care”を提供するために、昼夜を問わず、母体や胎児、新生児、家族のケアに努めます。

業務内容

産科部門は、妊産婦管理や分娩管理以外に、出生前診断、不妊症の診療、不育症に対する免疫的アプローチ、予防的治療、胎児治療など専門的な診療を提供しています。新生児部門は、早産児や低出生体重児に加えて、先天性心疾患などの合併症を有する児に対し、専門科と連携しながら高度医療機器を用いた集中治療を行っています。また、新生児蘇生法の普及活動や児の発育発達支援など、周産期全般に切れ目のない支援を提供しています。

病理部（医科担当）

病理部は臨床各科で採取された組織や細胞、手術標本から顕微鏡標本を作製し、鏡顕し、診断を行う部署です。手術中の迅速診断、病理解剖も行います。



体制と運営方針

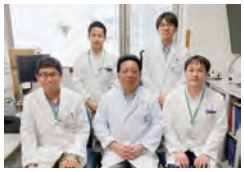
病理部所属病理医が、医学部臨床病理学分野、脳研究所病理学分野、歯学部口腔病理学分野と協力して病理診断業務を行っています。また、専任臨床検査技師７名で（細胞検査士４名）、組織標本作成、細胞診、剖検補助にあたっています。
病理部職員は直接患者さんと接する機会はありませんが、患者さんが安心して質の高い医療を受けられるよう、臨床各科と緊密に連携しながら、正確で迅速な病理診断に努めています。

業務内容

年間約8,000件の組織診断、6,000件の細胞診断、800件の手術中迅速診断（組織500、細胞診300）、30 例の病理解剖などを担当しています。
通常組織標本にはHE染色、細胞診標本にはパパニコロウ染色が行われます。必要に応じて、グラム染色などの特殊染色、様々な物質を特定する免疫染色、DNAなどを検出するin situ hybridizationも行っています。

病理部（歯科担当）

平成５年６月に歯学部附属病院に病理検査室が設置されたのが始まりです。平成30年10月に病理部（医科担当）との統合後も、病理部内にて病理診断業務を行っています。



体制と運営方針

口腔病理学分野の臨床業務をおこなう拠点として、歯科病理検査室が医歯学総合病院内に開設されています。医歯学総合研究科口腔病理学分野所属の先生とともに、口腔病理専門医の資格をもつ歯科医師を中心とした５名が、主に歯科診療各科で取り扱う炎症から嚢胞や腫瘍までの様々な疾患について、口腔病理診断を担当しています。多面的な科学的根拠を蓄積して精度の高い病理診断を実践することを目指しています。

業務内容

歯科診療各科に特化した病理業務を担当しています。細胞診・組織診のほかに、手術中の迅速診断や剖検も担当します。治療方針の決定から治療効果判定までに必要な口腔病理診断業務を担って、「科学的根拠にもとづいた歯科医療」に貢献すべく日々努力しています。また歯学部学生の教育も担当し、「病理診断のオーダーができる歯科医師」を育成するために病理学臨床実習の場としても機能しています。

集中治療部

大手術の術後・敗血症・呼吸不全などで重篤な状態となった患者さんに対し、多部門のエキスパートが協力して高度な集学的治療を行う部門です。

体制と運営方針

集中治療専門医を含む重症患者管理に習熟した医師が24時間体制で勤務しており、主治医チームと協力して治療にあたります。また、患者２名に対して看護師１名以上を配置することで細やかな看護を提供しています。一般病棟では行うことのできない高度な治療を提供するだけでなく、患者さんの個性・人格・社会的背景を尊重し、安全管理や倫理学的側面からも質の高い医療を提供できるように努めています。

業務内容

当部門には内科系・外科系を問わず、新生児から高齢者まで多様な患者さんが入室します。最良の結果を提供するためには常に患者さんの状態を把握し、臓器系統別に管理方針を立案し、エビデンスに基づく質の高い治療を適切なタイミングで行わなくてはなりません。このような集中治療を実現するために、医師・看護師だけでなく理学療法士、臨床工学技士、栄養士、薬剤師など多くの専門職が治療方針を共有して診療にあたっています。

血液浄化療法部

血液浄化療法部は腎臓病患者さんに行われる血液透析をはじめ、腹膜透析、血漿交換、血液吸着療法など多彩な血液浄化療法を担当します。

体制と運営方針

血液浄化療法部は15床で年間5,000件以上の血液浄化と40名の腹膜透析患者の診療を看護師、臨床工学技士、医師など多職種で連携して診療します。患者さんに安心・安全で質の高い血液浄化療法を提供します。

業務内容

血液透析（血液透析濾過）:慢性透析では関連施設から紹介された患者さんが安定して透析療法を行えるようきめ細かな管理を行います。また透析導入は患者さんが安心して治療できるよう丁寧に説明して行います。
腹膜透析は外来診療と腹膜機能検査などにより安定した透析療法と合併症対策に努めます。
透析療法の選択にあたり療法指導外来で腎臓病、各種透析療法の説明を行い、患者さんと一緒に最適な透析療法を決定します。

医療情報部

高度に情報化された特定機能病院において円滑に診療を進めるため、医療情報の管理、個人情報の保護、適切な情報利用の推進などを行っています。

体制と運営方針

医療情報部は、病院情報システムを管理し情報解析を担う医療情報係、診療録の監査や保管を担う入院・外来病歴室、紙媒体の電子カルテへの取り込みを行う入院・外来スキャンセンター、医師の事務作業を分担する医師事務作業補助者で構成されています。
病院情報システムの管理を通じて効率的な医療が行えるよう支えるとともに、院内各部署と連携して病院情報システムが医療安全上のセーフティネットとなるよう努めています。

業務内容

病院情報システムの改善、改修を行っています。臨床研究や経営健全化のために必要な情報を抽出するのも重要な役割の一つです。また、診療に係る資料を整理して電子カルテで一覧できるようにしたり、書類の進捗管理や下書きなど医師でなくても可能な事務作業を補助しています。患者さんと直接関わる業務はほとんどありませんが、診療が安全、円滑に行えるよう整備することで貢献したいと考えています。

光学医療診療部

広く清潔感あふれる環境下で最新鋭の機器を使用し、より安心・安全かつ高度な内視鏡医療提供に努め、年間7,000件におよぶ内視鏡検査・治療を行っています。

体制と運営方針

消化器内視鏡指導医７名、気管支鏡指導医１名を有し、日本消化器内視鏡学会指導施設、日本呼吸器内視鏡学会認定施設となっています。また、消化器内視鏡専門医13名、気管支鏡専門医２名が所属し、日々診療にあたっています。さらに日本カプセル内視鏡学会指導施設等の認定も受けており、特定機能病院として高度の医療を提供するとともに、高度の技術を修練し、専門医を育成する教育機関としての役割を有しています。

業務内容

日本でトップクラスの消化管内視鏡と気管支鏡による診療を行っており、海外からの研修も受け入れています。これまでに4,000件を超える早期癌に対する内視鏡的粘膜下層剥離術（ESD）の実績を有し、食道アカラシアに対する経口内視鏡的筋層切除術（POEM）をはじめ、肥満症に対する内視鏡的胃内バルーン留置術、食道癌に対する光線力学的療法等の先進医療にも積極的に取り組んでいます。

医科総合診療部

高度先進医療のピットホールを補完する目的で、全人的医療を行うために、医科総合診療部は機能を果たしており、月～金曜日の午前中の外来診察を行っています。

体制と運営方針

病気を診て人間を診ないといった方向に流されがちな現代医療体制を補完するため人間全体を癒すという全人的医療の重要性が注目されており、この点を踏まえて医科総合診療部は創設されました。当診療部門においては、どの専門外来を受診すべきか不明な患者さんや紹介状を持っていない患者さんに対応します。しっかりを話を聞き診察をした上で必要な検査を行います。そして、その結果を踏まえ適切な診療科、医療機関へ紹介をします。

業務内容

月曜日から金曜日の毎日、午前中の外来診察の形での患者対応となります。受診する患者さんは「自分は病気ではないか」と思うような症状をもつ方や一般内科疾病をもっている患者さんが中心です。他の専門外来に比べて、再来予約患者数を抑えてあり、時間的に余裕をもって患者さんの診察が可能です。
また、健康診断の各種診断書作成依頼にも対応しています。（特に中国渡航用などの特殊な形式が必要な診断書作成にも対応します。）

歯科総合診療部

高頻度一般歯科治療を中心に総合的な治療を行うとともに、初めて当院歯科を受診された方を専門性の高い適切な診療科へ御案内する予診業務を行っております。

体制と運営方針

平成18年度の歯科医師臨床研修の必修化に対し、その統括を目的として平成12年４月に設立されました。現在６名の専任教員と10名前後の専任スタッフにより総合的な歯科治療と予診業務、研修歯科医師による臨床研修の管理統括を行う体制を構築しています。また、歯学部学生による臨床実習の管理統括も行い、臨床実習・臨床研修のシームレスな臨床教育を行うことで、次世代をリードする歯科医師の養成を目指しています。

業務内容

初めて当院歯科を受診された紹介状をお持ちでない方にお話をうかがい、専門性の高い歯科治療を必要とする方は適切な専門診療室へご案内しています。また、高度な内容を含まない総合的な歯科治療が必要な方には、当部において専門診療科教員の指導のもと歯学部学生により行われる臨床実習や指導歯科医のもと研修歯科医により行われる臨床研修についてご説明申し上げ、ご協力をお願いしています。

輸血・再生・細胞治療センター

輸血製剤、造血幹細胞をはじめとした細胞製剤の一括管理を行っています。また、日進月歩に進歩する再生医療を安全性を担保し提供しています。

体制と運営方針

当院で使用される輸血療法や造血幹細胞、再生医療等製品などの全ての細胞製剤について当センターで中央一元管理を行っています。一元管理を行うことで細胞調製に関する高い知識や経験を得ることが可能となり、再生医療等安全性確保法をはじめとした各種法令に準拠した発展的な細胞治療の提供を可能にしています。

業務内容

輸血療法における血液製剤の厳密な管理は勿論のこと、造血幹細胞の採取や保管、再生医療等製品の発注から使用記録の管理などを総括しています。また、再生医療等製品では細胞調製－細胞培養－品質管理の一連のステップを専任の培養士が行うことで品質を担保した細胞製剤を提供しています。

患者総合サポートセンター

入退院支援や様々な相談支援を行い、また地域との連携を図ることで、患者や家族の皆さんが安心して療養を受けられるようサポートしています。

体制と運営方針

部長、副部長、看護師長のもと、看護師、医療ソーシャルワーカーおよび事務職員など約40名のスタッフが地域連携、入退院支援および各種相談の業務にあたっています。更に、薬剤師や管理栄養士など院内多職種が協働し、外来、入院から退院後までのつぎめない支援を行う体制としています。スムーズな地域連携と強力な入退院支援により、患者を早期に生活に戻し本院の医療資源を適切に提供するよう努めています。

業務内容

1. 入退院支援：入院に際して手続きや説明とともに入院前から退院リスク等の情報収集・評価を行い病棟との密接な連携により迅速な退院支援を行います。
2. 地域連携：地域において本院のもつ医療資源を効率よく提供できるよう地域のとの強力な連携を図ります。
3. 医療相談：医療福祉相談の他、あらゆる相談事の窓口機能を提供します。
4. 予約センター：スムーズな紹介・逆紹介のためのFAX予約業務等を行っています。

医療安全管理部

特定機能病院には高度な医療安全管理体制を実現する責務があり、患者本位の安全安心な医療の提供は本院の目標です。この目標を達成するための部署が医療安全管理部です。

体制と運営方針

医療安全管理部は病院長直属の部署であり、専従スタッフ４名（医師１名、看護師２名、薬剤師１名）を含む多職種の部員から構成されています。院内の全部署にリスクマネジャーを配置しており、部署横断的で、院内のほぼ全職種から成るユニークな部署です。特定機能病院に課せられた医療安全管理上の要件にしたがって、医療安全管理の各責任者、医療安全の委員会とともに、医療安全管理責任者（専従医師）が統括する体制です。

業務内容

医療安全管理部の業務は法令（医療法施行規則）と保険診療のルールに則り、院内規則に基づいて明確に定められています。医療安全の委員会に係る事務、医療事故等に係る記録の確認、原因究明、対策立案、患者等への説明、職員の指導、連絡調整、医療安全対策の推進、診療の状況確認、医療安全に関する職員の意識の向上、内外の情報収集と院内周知、医療安全に係る患者からの相談への対応など、多岐にわたる業務を行っています。

感染管理部

感染制御チームと抗菌薬適正使用支援チームの活動を中心に、病院内における感染対策全般を扱っています。

体制と運営方針

医師、看護師、薬剤師、臨床検査技師を中心に構成され、毎週の感染管理部会、毎月の感染対策委員会で院内の状況把握と対策を進め、各病棟・部署における担当者（ICM）と連携し、情報の収集と周知を図っています。さらに当院はHIV感染症/AIDS治療の関東甲信越ブロック拠点病院でもあるため、ブロック内における現状把握に加え、各種会議や研修会を企画するなど、エイズ医療の水準の向上及び地域格差の是正に努めています。

業務内容

感染制御チームは、病棟巡視を毎週実施し、各部署の感染対策の現状を把握するとともに、院内全体を対象に特定の病気、特定の病原体の発生状況について監視し、必要に応じて指導や助言を行っています。また、抗菌薬適正使用支援チームは院内での抗菌薬の使用状況を把握し、個別の症例についても主治医に助言し、院内全体における抗菌薬の適正使用を図っています。

総合臨床研修センター

臨床研修医、臨床研修歯科医のみなさんが充実した卒後臨床研修を円滑に行い研修に専念できるよう、福利・厚生を含めた研修に関する様々な業務を担当しています。

体制と運営方針

総合臨床研修センターは、病院西病棟２階に設置され、部長（医師）と２名の副部長（医師、歯科医師）が所属しており、部長は耳鼻咽喉科・頭頸部外科教授（病院長補佐）、副部長は医科総合診療部准教授、歯科総合診療部教授がそれぞれ兼任しています。また、４名の病院総務課臨床研修担当事務職員が常駐しており、研修医、研修歯科医のみなさんが研修をスムーズに行えるよう、いつでもサポートできる体制を構築しています。

業務内容

部長、副部長は、臨床研修プログラムの責任者、管理者として、研修医、研修歯科医の研修指導、院内の指導医・指導歯科医との調整・情報共有、協力型研修病院等との調整、研修プログラムの見直し、研修医・研修歯科医の研修評価の取りまとめなどを行っており、研修期間における研修医・研修歯科医の相談にも応じています。また、臨床研修についての質問や資料請求、及び各診療科での病院見学や実習にも対応しています。

摂食嚥下機能回復部

種々の疾患が原因となって「噛む」「飲み込む」などの問題を抱えた入院患者さんの口腔ケア、歯科治療、「食べる」リハビリテーションを行っています。

体制と運営方針

摂食嚥下機能回復部は、歯科医師、歯科衛生士を中心として構成されています。しかし、患者さんの全身状態を把握し、効率的・効果的なリハビリテーションを行うためには他職種との連携が欠かせないことから、隣接する総合リハビリテーションセンターの医師、療法士、看護師と常にコミュニケーションを取り、患者さんの情報を共有しながら日々の臨床にあたっています。

業務内容

口腔内の検査、嚥下機能の簡易検査を行った後に、嚥下内視鏡検査、嚥下造影検査（写真）などを行って「食べる」機能の問題点を具体的に明らかにします。検査結果に基づいて、１）治療的アプローチ（食べる障がいを治す）、２）代償的アプローチ（残存する機能を使って食べる）、３）環境改善的アプローチ（患者さんを取り巻く環境を整備する）を駆使して、患者さんの治療を進めていきます。

顎口腔インプラント治療部

顎関節疾患に対する世界標準の診察・検査・診断・治療、および人工歯根（デンタルインプラント）を用いた治療による機能・審美回復を専門に行っています。

体制と運営方針

世界標準に準拠した顎関節疾患の診察・検査・診断・治療と患者様のお口の中全体を見渡したデンタルインプラントによる機能・審美回復に関わる治療を行っています。どちらもすべての症例に関する検討会を必ず開催し、両学会の専門医が中心となって最適な治療方針の提示を心がけています。また、専任スタッフのみならず、院内の専門家が治療に参画し、常により良い治療を目指しています。病診連携にも積極的に取り組んでいます。

業務内容

顎関節の発育異常、外傷、炎症、腫瘍、顎関節症、歯ぎしりなどに対する治療およびスポーツマウスガードの製作や外部からの依頼による画像診断等を行っています。また、インプラントのための骨移植などの前処置、インプラントの埋入手術から冠や義歯の作製、メインテナンスまで一貫した治療を行っています。さらに学生・研修医教育と並んで、顎関節に関する新しい診断・治療法の開発やインプラントに関する研究も広く行っています。

医療連携口腔管理治療部

全麻下手術、癌放射線・化学療法、顎骨壊死関連薬剤などに伴う口腔不快症状、術後肺炎等を軽減することで、病院全体の患者さんの治療中・治療後のQOL向上に貢献します。

体制と運営方針

医療連携口腔管理治療部は部長１名を始めとして、副部長１名、特任助教２名の専従・専任歯科医師と、各診療科や衛生士部門、看護部門、患者総合サポートセンターからの部員を協力・構成員として診療を行っています。医科入院患者さんの口腔内の不快事象を軽くかつ短期間とし、主疾患の治療を完遂することを目的として①感染対策、②口腔粘膜炎管理、③顎骨壊死対策を三本柱として診療にあたっています。

業務内容

患者総合サポートセンターと連携し入院支援時から口腔健康管理を開始し、入院後は主疾患の治療中の口腔健康管理を行います。口腔内全体を診察し、感染巣の有無などを検索し、必要な場合は治療前に感染巣の除去を行います。それにより術後感染や顎骨壊死の予防を行っています。また放射線・化学療法、造血細胞移植などでは高確率で口腔粘膜炎が出現するため、粘膜炎軽減のための粘膜保護、口腔衛生管理などを行っています。

言語治療室

外来棟５階に配置し、口唇口蓋裂を中心とした音声言語の治療を担当しています。

体制と運営方針

口唇口蓋裂の治療目的は、良好な顎発育と音声言語機能の獲得であり、最終的に形態と機能の調和がとれた治療体系の確立に向けて、研究成果を報告しています。なお、当院の口唇口蓋裂治療は、医科歯科連携のもと、二段階口蓋形成手術法を施行しています。本治療体系の特徴は、一般的に、良好な顎発育が期待できる一方、幼児期早期の音声言語機能の獲得には一時的に否定的な影響が懸念されますので、きめ細やかな言語管理が重要です。

業務内容

口唇口蓋裂を中心とした音声言語の治療が主たる業務内容になりますが、口唇口蓋裂に限らず、小児の音声言語に関して、お子さまの言葉の発達が遅い、発音がはっきりしない、言葉がどもる等のご心配がございましたらご相談ください。特に、口腔外科、矯正歯科、小児歯科、形成外科と連携して治療をすすめてまいります。

お口の健康室

歯科治療後のメンテナンス

体制と運営方針

お口の健康室は歯と歯周組織の健康を保ち、生涯を通じて健やかな口腔の機能を保つことにより「美味しく食べる」ことができるよう支援するという視点から、診療に従事するとともに、歯科衛生士養成の臨床教育の場としての役割を担っています。

業務内容

各診療室と連携し、歯科衛生士養成の臨床教育の一環として歯科治療後のメンテナンスを中心に診療を行っています。

栄養管理部

毎食平均600食の食事の提供、年間平均2,500件の栄養相談や、体調や病状に合わせた食事の提供や栄養管理のサポートを行っています。

体制と運営方針

栄養管理部は主に食事提供を行う「栄養管理室」と食事が食べられない方や栄養状態が悪い方への栄養管理を行う「栄養サポートチーム」という２部門で構成されております。治療行為の一翼を担う部門として「食は命の根源である」ということを心にとめ、患者の立場に立ったおいしく安全な食事の提供、病態に合わせた食事指導　栄養相談、患者に寄り添った栄養面でのサポートができるように栄養管理の質の向上に努めています。

業務内容

入院中に食事を楽しんでいただけるよう行事食、病棟バイキング、選択メニュー等を実施しています。また肝疾患相談センターと共同で分岐鎖アミノ酸をおいしく楽しく食べるために「食らくレシピ♪」を考案しホームページで作り方を公開しております（https://www.nuh.niigata-u.ac.jp/liv/info/494/）。

腫瘍センター

より良いがん治療を患者さんに安全にお届けすることを目標とし、病院内のがん診療を統括、サポートしています。

通院治療室

体制と運営方針

腫瘍センターは、「通院治療室」「緩和ケアチーム」「がん相談支援センター」「がん登録室」の４つの部門から構成されています。当院は地域がん診療連携拠点病院であり、高度かつ専門的ながん治療を適切に患者さんにお届けできるよう努めています。

業務内容

通院治療室は抗がん剤などの点滴治療を受ける場所です。近年は外来点滴治療は増加しており、2018年度は8,500件超の外来治療をサポートいたしました。緩和ケアチームでは専門スタッフががん患者さんの体、心の負担を取る治療を行っています。がん相談支援センターでは患者さんの気持ちに寄り添った、療養上の相談を行っております。がん登録室ではがん患者さんのデータを集計し、がん診療の質の向上に繋げています。

医師キャリア支援センター

医師キャリア支援センターでは、臨床研修修了後の専門研修において、専攻医の専門医取得・学位取得の支援、および指導にあたる指導医の支援を行っています。

体制と運営方針

医師キャリア支援センターは、平成20年度に新潟大学医歯学総合病院内に設置されました。１名の専従の特任教員と１名の事務職員が配置され、専門研修プログラムを提供する各診療科（部）や総合臨床研修センターと連携して活動しています。医師キャリア支援センター関係者のミーティングを週１回開催し、センターとしての方針に沿って活動しています。

業務内容

新潟大学医歯学総合病院全26領域の専門研修プログラムを網羅した専門研修プログラム冊子を作成し、全国の臨床研修医や医学生への情報発信を行っています。専門研修医登録・更新フォームにより、各自の専門医取得・学位取得状況等を管理するシステムを構築しています。テレビ会議システムを用いて県内27施設との医療連携を行っており、専攻医や指導医の様々なキャリアアップのニーズに応えるべく活動しています。

移植医療支援センター

新潟大学医歯学総合病院における臓器提供から臓器移植医療全般を診療科・部門・職種を超えて横断的・総合的に対応する部署です。

体制と運営方針

医師・ドナーコーディネーター・レシピエント移植コーディネーター・事務員ならびに院内各部署に配置された県知事委嘱状を受けた院内コーディネーターが協働し、脳死・心停止下の多臓器提供から、脳死・心停止下献腎移植・脳死下膵腎同時移植・膵移植・生体腎移植・角膜移植といった臓器移植医療のあらゆる場面に対応できる院内体制を構築・提供する。

業務内容

日常業務として、臓器提供マニュアルや院内コーディネーター・担当医名簿の整備更新を行う一方、定期的に院内コーディネーター会議・臓器移植医療や臓器提供に関する勉強会・シミュレーション等を開催する。
臓器提供事例発生時には外部機関（県臓器移植推進財団・日本臓器移植ネットワーク）と連携し円滑な臓器提供の実現と質の高い家族ケアの提供に努める。

不整脈センター

不整脈疾患の診療と研究を行っています。年間200件を超えるアブレーションと100件以上のデバイス手術を行い、他院、他県からも多くの患者さんを受け入れています。

体制と運営方針

不整脈センターは、高度な不整脈診療を推進するために2012年に設立されました。循環器内科、心臓血管外科、小児科と連携し、高度先進医療技術を駆使した不整脈の診断および治療を患者さんに提供するとともに、不整脈診療を担う医師およびスタッフの育成に努めています。また、専門的な研究により不整脈学の発展に寄与しています。

業務内容

当センターでは不整脈疾患に対して薬物治療とともに手術治療を行っています。手術治療には、不整脈の原因領域を焼灼し不整脈を根治させるアブレーション手術や、重症不整脈を停止させる植込み型除細動器をはじめとした心臓デバイス植込み術、脳梗塞予防を目的とした左心耳閉鎖術などを行っています。当センターでは患者さんの病態にあった治療法の選択を行いたいと考えています。不整脈でお困りの際には、お気軽にご相談ください。

魚沼地域医療教育センター

平成25年に本学、新潟県、新潟県地域医療推進機構の間で締結された協定書に基づき、平成27年６月１日に魚沼基幹病院内に魚沼地域医療教育センターが設置されました。

体制と運営方針

魚沼地域は、全国に先駆けて高齢化が進んでいます。様々な疾患をもつ高齢者が多いことから、医師には専門診療能力に加えて総合診療能力が要求されます。当教育センターでは、総合内科専門医と各専門分野の指導医を特任教員として配置し、総合診療能力を養成できる臨床研修プログラムを策定しました。こうして、総合診療能力を有する高度専門医を安定的に確保することで、新潟県の地域医療に大きく貢献することが期待されます。

業務内容

約40名の特任教員が、当教育センターに配置されています。特任教員は、魚沼基幹病院勤務医と協力して以下の事業に診療を通して従事します。従事する事業は以下の通り；医学部５～６年生を対象とした卒前教育、総合診療能力養成を主眼とした卒後臨床研修プログラムの策定と実践、各科専攻医を対象とした多様な後期専門研修プログラムの提供、地域医療人研修の提供、研究機能の向上、および地域医療への貢献。

臨床研究推進センター

治験や臨床研究が円滑に行われるように立案、倫理申請手続き、研究実施をサポートし、また、新しいプロジェクトを発掘することにより、新医療の開拓に貢献しています。

体制と運営方針

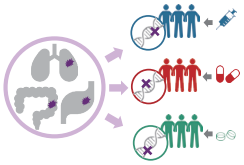
当センターには、臨床研究開発戦略部門、臨床研究品質管理部門、臨床研究実施部門、運営管理部門の 4 部門があり、開発戦略、データの品質管理、治験・臨床研究の実施支援、事務対応を行っています。各部門が連携し、医療イノベーションを創出し、社会への先進的な医療の提供に貢献するとともに、臨床研究に携わる専門家を育成・輩出することを目指し、基礎研究から治験・臨床研究へと一貫した開発支援を行っています。

業務内容

臨床研究開発戦略部門では、実用化に向け、開発前から全体に渡る戦略的な助言を研究者に行います。臨床研究品質管理部門は、高品質なデータ取得・管理ができる試験計画の策定、統計・モニタリング等を担います。臨床研究実施部門では、倫理・安全面に配慮した健全な治験・臨床研究の実施についてCRCを中心とした実務支援を行います。運営管理部門では、企業との契約、倫理委員会の運営等、円滑な事務運営を支援します。

ゲノム医療センター

新潟大学医歯学総合病院における個々のがん患者に対する最適な診断・治療の提供、ゲノム医療に係る研究開発及びゲノム医療に携わる人材育成を行っています。



体制と運営方針

がんゲノム医療部門、ゲノム情報管理部門を設置し、各部門長は業務を分担しがんゲノム医療に関わる管理・運用のための体制を構築しています。
高度ながんゲノム医療を提供するがんゲノム医療拠点病院（2019年 9 月指定）の責務として、がん遺伝子パネル検査に対応し、患者さんのがんに特徴的な遺伝子変異をもとに治療に役立つ情報の提供に努めます。

業務内容

がんゲノム医療に係る業務の統括を行っています。遺伝子パネル検査の結果を医学的に解釈するためのエキスパートパネル（多職種検討会）の運用、がんゲノム医療を円滑に進めるための他部署との連携、がんゲノム医療に係る情報の集約を行うとともに、がんゲノム医療に係る教育・研修も行っています。また、遺伝カウンセリングやゲノム情報等の収集・管理・登録についても責任をもって実施しています。

遺伝医療支援センター

遺伝医療支援センターは出生前診断、遺伝性腫瘍、遺伝性難聴、神経筋疾患等、幅広い疾患の遺伝カウンセリングと遺伝学的検査を実施しています。

体制と運営方針

遺伝カウンセリング外来では、遺伝性疾患やご家族への遺伝について心配されている方等を対象に、正確な遺伝医学的情報を提供し、相談者が自律的に意思決定できるよう、臨床遺伝専門医、認定遺伝カウンセラーと診療科の医師による医療チームで診療します。遺伝医療に携わる教育と医療人の育成を行っています。

業務内容

●幅広い遺伝性疾患の遺伝カウンセリングを実施し、診療科横断的に活動しています。
●遺伝学的検査の実施、検査担当機関とのコーディネートをしています。

対応疾患の例：遺伝性乳がん卵巣がん症候群、リンチ症候群、家族性大腸腺腫症、遺伝性難聴、脊髄小脳変性症、家族性アルツハイマー病、高齢妊娠、染色体異常症、妊娠と薬相談、マルファン症候群、ファブリー病、色素性乾皮症、色覚異常症、ミトコンドリア病、血友病等

高度医療開発センター

本部門は、難治性疾患に対する新治療開発と歯科口腔領域の再生医療の実現のため、院内で培われた治療技術を薬事承認や自由診療に繋げる最終ステップを担います。

体制と運営方針

本部門は、ノーベルファーマ社、コージンバイオ社の出資により、院内初の共同研究部門として2020年 4 月に発足しました。両社と協力し、呼吸器疾患の治療と歯科再生医療の開発を担います。プロジェクトのうち、呼吸器系疾患の臨床試験は臨床研究推進センターおよび呼吸器感染症内科、一方、再生医療プロジェクトは歯科診療科と輸血再生細胞治療センターおよび他大学病院等の医療施設と協力して臨床試験と自由診療を展開します。

業務内容

以下のプロジェクトを行います。

1）自己免疫性肺胞蛋白症に対するLeukine吸入療法の薬事承認
2）非結核性抗酸菌症等難治性呼吸器感染症に対するLeukine吸入療法の臨床試験の実施
3）mTOR阻害剤（シロリムス）の新作用に関する研究会の運営
4）歯槽骨顎骨再生医療の自由診療の普及
5）顎骨再建の再生医療の医師主導治験の実施
6）歯科再生医療の術式と材料の開発

医療人材育成センター

医療人材育成センターは2019年２月に開設されました。地域における医療提供体制の課題の解決を図っています。

体制と運営方針

地域医療に従事する医師等に対する教育等の支援及び地域医療を担う医師等の養成・確保に関する研究等を行い、医療人材を育成することを目的としています。

業務内容

地域における医療人教育、医療提供体制、地域における効果的な医療人の配置の在り方、その他地域医療の支援に関する業務を行っています。

小児がん医療センター

小児がんの治療には多くの診療科が関わる専門性の高い治療が必要です。小児がん医療センターは、診療科横断的に、質の高い診断・治療ならびに療養環境の提供を目指します。

体制と運営方針

小児がん医療センターは血液・腫瘍学を専門とする小児科医と、チャイルド・ライフ・スペシャリスト（Child Life Specialist：CLS）によって構成されます。CLSは、医療環境にある子どもや家族に心理社会的支援を提供する専門職で、このたび新潟にはじめて導入されました。医師、CLS、看護師、保育士、ソーシャルワーカーなどの多職種がそれぞれの力を結集して「子ども・家族中心医療」を目指します。

業務内容

小児がんでは、身体や心への配慮をしつつも、高度な医学技術や総合判断が必要です。全身のあらゆる部位から発生し、様々な外科系診療科ならびに中央診療部門（集中治療など）が関わるため、成人のがん診療とは異なる専門家チーム（集学的治療）が必要です。小児がん医療センターは、抗がん剤治療や造血幹細胞移植を担当し、家族全体の心理社会的支援を含め、最適な集学的治療を提供するための舵取りの役目を果たします。

新規医療技術等管理センター

当部署では高難度新規医療技術、未承認新規医薬品等、適応外の診療行為を新規に実施する場合の審査・検証を行っています。

体制と運営方針

◆体制

センター長　冨田　善彦（病　院　長）
高難度新規医療技術管理部門長　福地　健郎（眼　科　長）
未承認新規医薬品等管理部門長　若井　俊文（副 病 院 長）
他、医師、歯科医師、薬剤師、看護師が構成員に入り、それぞれの専門的な見地から審議を行っています。

◆運営方針……医療法施行規則等の法令や当院のルールに従い、高度医療の安全な実施を支援しています。

業務内容

一般病院では治療が困難な難病、重症症例の治療は、特定機能病院である当院の使命のひとつです。症例によっては、高難度手技、未承認新規医薬品等、適応外による医療が、既存の医療よりも有効な場合があると考えられます。しかし、これらの新たな医療には同時に合併症や副作用のリスクもあるため、実施の可否を慎重に検討しなければなりません。当センターでは、各専門職種が、これの医療を包括的に審査・検証しています。

薬剤部

薬剤部の理念は、「くすり」の専門家として安心・安全な医療へ貢献することです。この理念に基づき、医薬品が適正かつ安全に使用されるように業務を行っています。

体制と運営方針

調剤室、薬品管理室、注射・製剤室、医薬品情報管理室、歯科薬剤・麻薬管理室、薬務室、試験研究室の、主に薬剤部内で業務を行う室に加え、薬剤部外での業務が主体の、化学療法支援室、第１・第２病棟薬剤業務室、治験薬管理室を設置しています。購入、管理、調剤・製剤から、投薬、評価までの医薬品が関わる全ての段階で、薬剤師が医薬品の適正かつ安全な薬物療法に貢献できるように運営を行っています。

業務内容

薬の専門家として職能を充分に発揮し、有効かつ安全な薬物療法を確実に提供するよう業務を行っています。対物的な業務（調剤、処方鑑査、薬品管理、薬品情報、無菌調製、治験薬管理等）と対人的な業務（薬学的管理、服薬指導、副作用チェック等）を機能的に連携することで、質の高い薬剤師業務を実施しています。様々な医療チームへ参画し、薬学的視点から医薬品・医療のセーフティーマネジメントを担う役割も果たします。

看護部

看護部は、高度先進医療を担う医療チームの一員として専門性を発揮し、社会のニーズに応じた看護を提供しています。

体制と運営方針

看護師・助産師、看護補助者等約900名の看護職員を擁し、病棟をはじめ外来、手術部、高次救命災害治療センター、集中治療部、放射線部等、40の部署で看護を行っています。
「患者さまひとりひとりを尊重し、心をこめて、質の高い看護を提供します」を理念とし、医療チームの一員として他部門と連携し、温かな、そして専門的な知識・技術のもとで安全で安心できる質の高い看護の提供に努めています。

業務内容

患者さんとご家族の最も身近なライフサポーターの視点から、外来、入院、検査・手術、退院調整等の様々な場面で他職種と協働し、患者さんにとって最適な医療・ケアが提供できるよう看護の専門性を発揮しています。専門看護師や認定看護師等専門分野の資格を持つ看護師や助産師が、患者さんの多様なニーズに対応しています。
教育プログラムを開発し、県内の看護職、看護学生の人材育成や教育活動に取り組んでいます。

診療支援部

先進的で高度な医療を提供する大学病院において、医療技術の提供を行う部門です。全病院的なサービスを行い病院の重要な機能の一翼を担っています。

体制と運営方針

診療支援部は医療技術の組織化と一元管理を目的に設置され、６部門９職種より構成され現在200名近い部員が在籍しています。部門は、臨床検査部門、放射線部門、リハビリ部門、臨床工学部門、歯科技工部門、歯科衛生部門があり、それぞれの診療科や中央診療施設で業務を行っています。
先進的で高度な医療を提供する大学病院において、診療支援部の理念である患者様一人ひとりを尊重し安全で質の高い医療を提供できるように努めています。

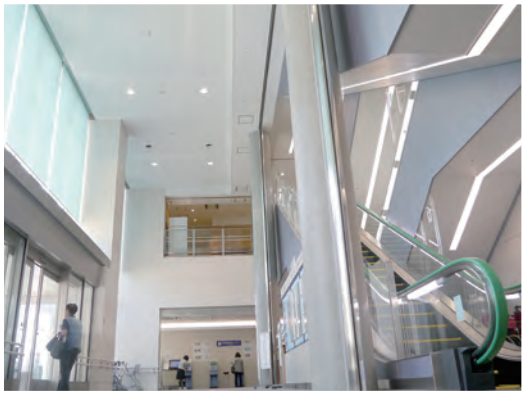
業務内容

６部門では医療技術の提供手段は違いますが、診療支援部の理念のもと目標を持ち、患者様の近くで安全で質の高い医療技術提供しています。また、多数の医療技術職の学生実習を受け入れ、医療人の育成にも力を入れています。診療支援部では職種間の相互理解を図り協力関係を強固にし、新たなサービスの向上に努めています。
我々は患者様のためになる医療に挑戦し続けている部門です。

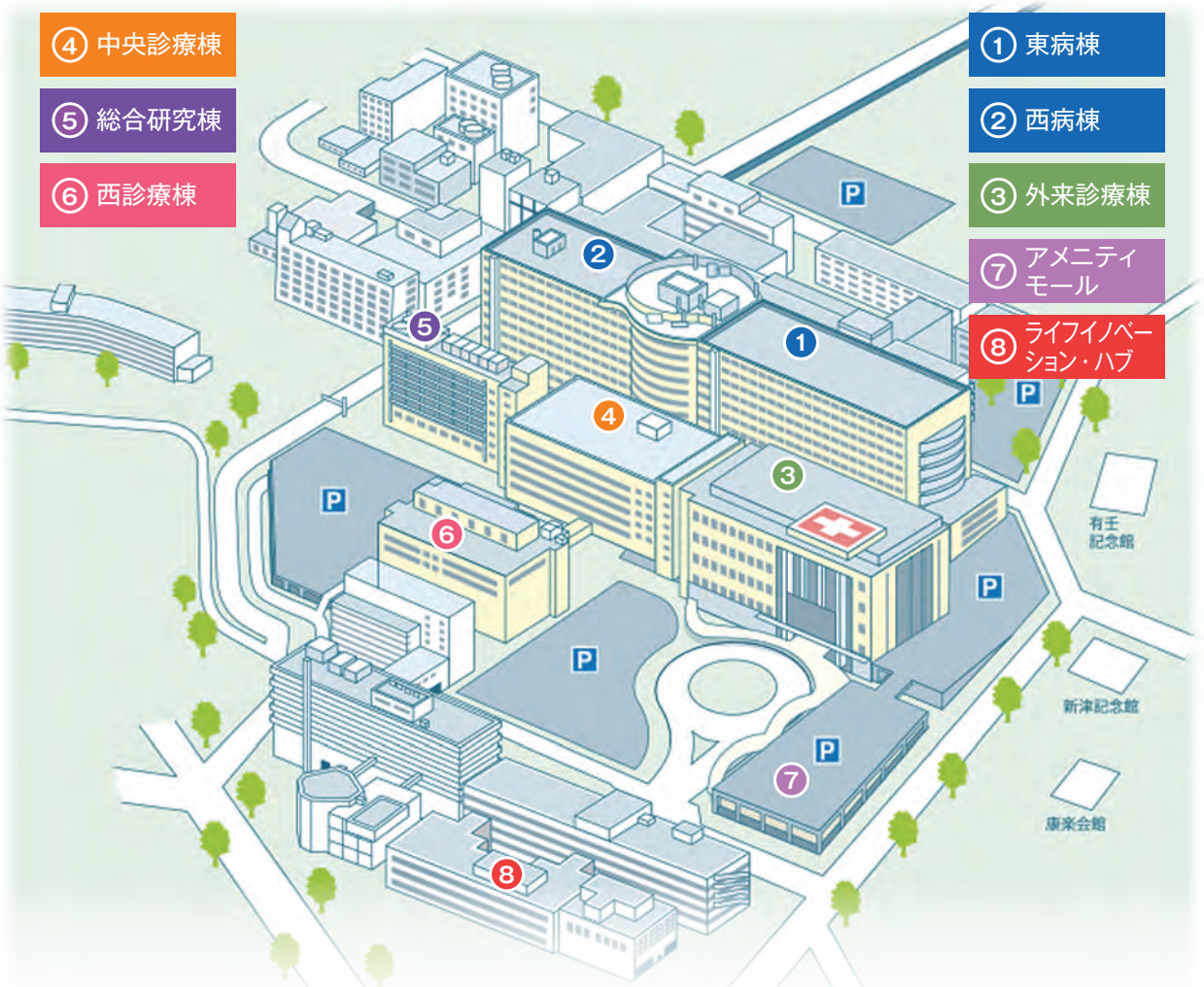
11 院内案内図

	西病棟	病棟	東病棟	外来診療棟
12階	●食堂 ●ラウンジ ●小会議室 ●特別会議室		●大会議室 ●家族控室 ●海のみえる図書館	
11階〜8階	●内科(腎・呼吸器・一般)病棟[11階] ●内科(血液・循環器・一般)病棟[10階] ●皮膚科・内科病棟[9階] ●外科(消化器・一般)病棟[8階]		●脳神経内科・内科病棟[11階] ●外科(心臓血管・呼吸器)・内科・救急病棟[10階] ●脳神経外科・内科病棟[9階] ●内科(消化器・腫瘍)・外科病棟[8階]	
7階	●整形外科・形成外科病棟		●耳鼻咽喉科・整形外科・救急病棟	
6階	●院内学級(あさひ学級) ●小児科・小児外科・形成外科・脳神経外科病棟		●眼科・小児科・麻酔科・形成外科病棟	
5階	●総合周産期母子医療センター ●産科病棟		●精神科病棟	●歯科 ●ドクターヘリ事務室 ●医療安全管理部・感染管理部
4階	●産科・婦人科・内科病棟		●移植医療支援センター ●泌尿器科・放射線科病棟	●歯科
3階	●看護職キャリア開発コアセンター ●医療情報部(電算機室) ●第2〜第6検討会室		●高密度無菌治療部(無菌室) ●歯科・BCR・救急・内科・整形外科病棟	●小児科 ●小児外科 ●産科婦人科 ●麻酔科 ●泌尿器科 ●皮膚科 ●第1検討会室
2階	●医師キャリア支援センター ●光学医療診療部(内視鏡室) ●血液浄化療法部 ●総合臨床研修センター		●総合リハビリテーションセンター ●中央エコー室 ●輸血・再生・細胞治療センター	●内科 ●内科系処置室 ●検査部(中央採血室・採尿室・生理検査室) ●栄養相談室
1階	●病棟玄関 ●栄養管理室 ●防災センター		●薬剤部 ●売店 ●理容室 ●ATM	●形成・美容外科 ●整形外科 ●脳神経外科 ●消化器外科 ●乳腺・内分泌外科 ●心臓血管外科 ●呼吸器外科 ●眼科 ●放射線治療科 ●放射線診断科
B1階(エントランス階)	●物流センター ●入院病歴室		●物流センター ●薬剤部 ●病理解剖室 ●霊安室	●耳鼻咽喉・頭頸部外科 ●感染症診察室 ●エントランス・待合ホール ●相談室 ●患者総合サポートセンター ●医療相談室 ●精神科 ●病院事務部(医事課)
	西病棟	病棟	東病棟	外来診療棟

令和元年5月1日現在

中央診療棟	西診療棟	総合研究棟	
			12階
			11階～8階
		●臨床研究推進センター ●遺伝医療支援センター ●魚沼地域医療教育センター（事務室）	7階
		●医療情報部	6階
		●病院事務部 （基礎・臨床研究支援課）	5階
●高次救命災害治療センター・ICU			4階
●手術部	●臨床研究推進センター （臨床研究品質管理部門） ●第1～第3会議室 ●腫瘍センター（緩和ケア室）		3階
●手術部 ●物流センター（滅菌材料部門）	●検査部 （微生物検査室・生物検査室・遺伝子検査室・特殊分析室） ●病理部	●病院事務部 （総務課・経営企画課・管理運営課） ●看護部管理室 ●病院長室	2階
●放射線部（一般X線撮影室・CT室） ●救急外来	●臨床研究推進センター （臨床研究実施部門） ●腫瘍センター（通院治療室） ●放射線部（血管撮影室） ●遺伝カウンセリング室		1階
●放射線部 （放射線治療室・MRI検査室・アイソトープ外来）	●外来カルテ室		B1階（エントランス階）
中央診療棟	西診療棟	総合研究棟	

12 建物配置図



土地面積／77,225㎡
Area of Campus

建物面積／建面積:27,930㎡
Area of Buildings / Floor Area

延面積:122,937㎡
Total Area

（令和2年5月1日）

名称 Divisions	構造 Type of Structure	建築面積（㎡） Area of Buildings	建築延面積（㎡） Area	竣工年度 Completion Year
西病棟 West Ward	S-12-2	2,445	28,993	平成12年度 2000
東病棟 East Ward	S-12-2	2,069	23,027	平成17年度 2005
中央診療棟 Central Wing	R-5-1	2,282	11,412	平成21年度 2009
西診療棟 West Wing	R-5	2,090	7,824	昭和60年度（平成23年度改修） 1985（2011）
外来診療棟 Outpatient Wing	R-6-1	4,019	21,043	平成24年度 2012
総合研究棟 Administration Wing	R-8-1	710	6,664	昭和52年度（平成20年度改修） 1977（2008）
ライフイノベーション・ハブ（F棟） Lifeinnovation Hub	R-3	974	2,023	昭和48年度（令和元年度改修） 1973（2019）
ライフイノベーション・ハブ（H棟） Lifeinnovation Hub	S-5	510	863	平成9年度（令和元年度改修） 1997（2019）
アメニティモール Convenience store, Restaurant, Coffee shop, etc	S-2	1,854	1,460	平成25年度 2013
新潟医療人育成センター Niigata Medical Professionals Development Center	SR-4	622	1,962	平成26年度 2014
中央機械室 Central Power Station	R-2	1,922	2,455	昭和51年度 1976
看護師宿舎 Dormitory for Nurses	R-4	850	3,294	昭和42年度（平成5年度改修） 1967（1993）
第2駐車場 Multi-level car parking tower 2	R-1	2,844	2,794	平成17年度 2005
第5駐車場 Multi-level car parking tower 5	R-2	3,921	7,847	平成26年度 2014
その他 Other		818	1,276	
合計 Total		**27,930**	**122,937**	

新潟大学医歯学総合病院平面図

新潟大学医歯学総合病院

〒951-8520 新潟県新潟市中央区旭町通一番町754番地

TEL.代表 025-223-6161 URL.https://www.nuh.niigata-u.ac.jp/

MAP

交 通

■新潟駅（万代口バスターミナル）からバス利用 ―

◆『新潟大学病院』バス停で下車（外来診療棟前ロータリー着）
4番のりばから出発する【新大病院線】乗車
※4番のりばから出発する【新大病院線】以外では本院にアクセスできません。

◆『市役所前』バス停で下車（本院まで徒歩3分）
0、1、5、6番のりばから出発する市内バス及び8番のりばから出発する【鳥屋野線】乗車
※8番のりばから出発する【鳥屋野線】以外では本院にアクセスできません。

■新潟駅からタクシー利用 ―― 新潟駅万代口からタクシーで約10分

■白山駅からタクシー利用 ―― 白山駅からタクシーで約5分（徒歩の場合は約15分）

編集・発行／新潟大学医歯学総合病院広報委員会
発　行　日／2020年12月
（お問い合せは総務課総務係　電話025−227−2408まで）

リサイクル適性Ⓐ
この印刷物は、印刷用の紙へリサイクルできます。